

厚生労働省科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需給予測に資する研究

医療系学生と献血ルーム来訪者を対象とした献血に関する意識調査研究

令和元年度報告書

田中 純子：広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

研究協力者： 杉山 文：同 疫学・疾病制御学 助教
野村 悠樹：同 疫学・疾病制御学 大学院生
阿部 夏音：同 疫学・疾病制御学 大学院生
今田 寛人：同 疫学・疾病制御学 大学院生
増本 文：同 疫学・疾病制御学 大学院生
秋田 智之：同 疫学・疾病制御学 助教

研究要旨

若年層の献血離れ対策のために厚労省研究班の研究の一環として我々は2009年に献血に関する意識調査¹⁾を行い、献血に関する知識やイメージ不足が若年層における献血実施の障壁となっている可能性を指摘した。これまで、厚生労働省、地方公共団体および日本赤十字社等により若年層に対する献血推進活動としてさまざまな取組が行われているが、依然若年層の献血者数は減少傾向にあり、血液製剤の安定供給を将来に亘って確保するため若年層に対する献血の推進は引き続き重要課題である。また、将来医療の担い手となる医学・薬学系の学生等には、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらう必要があるが、医療系大学生の献血への意識および献血行動についてはこれまで十分把握されていない。

本研究では、医療系大学生を対象に献血に関する意識調査を実施し、医療系大学生の献血に関する意識、知識、行動を明らかにすること、および献血ルームを訪れた献血希望者に対して初回献血時の動機を調査することで、若年層に対する献血導入に必要な「きっかけ」を明らかにすることを目的とした。

その結果、以下のことが明らかとなった。

1. 医療系大学生を対象とした調査では、広島大学医学部（1,3,4,6年生 全480人）・歯学部（2,3,4,5年生 全332人）・薬学部（1-6年生 全360人）の全1,172人を対象とし、1,039人に調査票を配布、731人（医学部298人、歯学部208人、薬学部225人）より回答を得た（回答率70.4%）。献血ルームにおける調査では、広島市内2か所、大阪市内3か所の献血ルームにて、来訪者合計600人を対象とした調査を実施し、広島市では599人、大阪市では615人より回答を得た。
2. 医療系大学生の調査では、対象者（N=731）の24.4%に献血経験があり、平成28年度日本赤十字社報告の一般若年層（10代、20代）の献血率（それぞれ5.2%、6.2%）²⁾の

3.9-4.7 倍の水準であった。献血未経験者 545 人の中で「これまで献血に行ってみようと思ったことはある」と答えた人は、280 人 (51.4%) であった。また、高学年ほど献血経験率・献血に関する知識保有率は有意に高く、6 年生 (N=97) の献血経験率は 30.9%、「献血された血液によって作られる輸血用血液製剤の有効期限は短く絶えず献血が必要なこと」の認知度については 97.9%、「献血は輸血だけでなく、血液を原料とした血液製剤としてさまざまな病気の治療に役立っていること」の認知度については 96.9%であった。献血ルーム (広島市内 2 か所&大阪市内 3 か所) 来訪者 (N=1,214) における同項目の認知度については、それぞれ 73.1%、69.4%であり、高学年の医療系大学生は一般献血者集団よりも献血に関する知識保有率は高かった。

3. 医療系大学生の献血経験に関連する因子について多変量解析を用いて検討した結果、「男性」(AOR: 2.7、95%CI:1.8-4.0、 $p<0.0001$)、「輸血用血液製剤の有効期限は短く絶えず献血が必要なことを知っている」(AOR:1.9、95%CI:1.1-3.2、 $p=0.0267$)、「輸血用血液製剤使用目的は、がん治療が最も多いことを知っている」(AOR:1.7、95%CI:1.1-2.5、 $p=0.013$)、「若年層の献血者が減少していることを知っている」(AOR:1.6、95%CI:1.1-2.5、 $p=0.0166$)、「献血ルーム前の看板・表示を見たことがある」(AOR:1.8、95%CI:1.2-2.7、 $p=0.003$)、「周りに献血をしている人がいる」(AOR:2.1、95%CI:1.3-3.4、 $p=0.0015$) の 6 項目が有意に関連する因子として示された。
4. 「若年層の献血協力者の減少傾向」については、献血ルーム (広島市内 2 か所&大阪市内 3 か所) 来訪者 (N=1,214) のうち、10-20 代 (N=268) の 55.6%、30-40 代 (N=560) の 52.9%、50-60 代 (N=379) の 59.9%が認知していた。年代別にみた認知度に有意差は認めなかった ($p=0.1962$)。一方、医療系大学生のうち献血未経験者では 1・2 年生 (N=214) の 40.2%、3・4 年生 (N=221) の 47.1%、5・6 年生 (N=110) の 64.5%、献血経験者では 1・2 年生 (N=54) の 74.1%、3・4 年生 (N=78) の 61.5%、5・6 年生 (N=45) の 71.1%が認知していた。献血経験者においては、学年別の認知度に有意差を認めなかったが ($p=0.6779$)、献血未経験者においては、高学年ほど認知度が高かった ($p<0.0001$)。「若年層の献血協力者の減少傾向」を認知していて献血経験のない医療系大学生は、261 人 (35.7%) であり、そのうち「これまでに献血に行ってみようと思ったことがある」人は 150 人 (57.5%) であった。
5. 献血ルームにおける調査では、広島市内献血ルーム (対象者 N=599) では若年層 (10-20 代) は全体の 17.7%、大阪市内献血ルーム (対象者 N=615) では 26.3%であった。広島市内献血ルーム来訪者の 78.9%、大阪市内献血ルーム来訪者の 61.6%はこれまでの献血回数が 10 回以上であった。
6. 献血ルーム来訪者 (広島・大阪 合計 N=1,214) が初めて献血をした年齢は、10 代 40.7%、20 代 41.1%であり、30 歳以上で初めて献血をした人は全体の 12.5%であった。10-20 代の若年層に対する初回献血推進が、習慣的な献血行動につながる可能性が示唆された。

7. 初めて献血した場所は「献血ルーム」が最も多く 42.6%、次いで「献血バス」32.0%であった。10-20 代の若年層 (N= 268) だけを見ると、「献血ルーム」の割合が 67.2%と高く、次いで「献血バス」が 21.3%であった。初めて献血したときの同伴者については「一人でいった」が最も多く 49.9%、次いで「友人」23.3%であった。10-20 代の若年層 (N=268) だけを見ると、「一人でいった」が最も多く 53.0%、次いで「友人」21.6%であったが、「家族・親戚」と一緒に行ったという回答 (15.7%) がでは他の年代よりも有意に多かった (30-40 代 : 7.5%、50-60 代 : 6.3%、 $p=0.0001$)。
8. 献血ルーム来訪者 (広島・大阪 合計 N=1,214) において「初めて献血を知ったきっかけ」は全体では「献血バス」が最も多く 47.3%、次いで「街頭での広報活動・呼び込み」30.2%であったが、年代別にみると、10-20 代の若年層 (N=268) では、「家族・友人から聞いた」ことがきっかけであった割合が 44.0%と、他の年代 (30-40 代 : 27.0%、50-60 代 : 15.6%) よりも有意に高かった ($p<0.0001$)。他に、10-20 代の若年層では「学校の授業等」「ホームページ、SNS」をきっかけに献血のことを知ったという回答 (それぞれ 27.2%、6.3%) が他の年齢層と比べ有意に多く ($p<0.0001$ 、 $p=0.0001$)、逆に「新聞・テレビ等の報道」がきっかけであったという回答 (10.1%) は他の年齢層と比べ有意に少なかった ($p=0.0138$)。一方、献血経験のある医療系大学生 (N=178) が、初めて献血を知ったきっかけとして最も多かったのは「学校の授業等」(43.3%) であり、次いで「該当での広報活動、呼び込み」(33.7%)、「家族・友人から聞いた」(32.6%) であった。
9. 献血ルーム来訪者 (広島・大阪 合計 N=1,214) において「初めて献血に行ったきっかけ」は、全体では「自分の血液がだれかの役に立ってほしいから」が最も多く 54.6%、次いで「輸血用の血液が不足しているから」27.5%であったが、年代別にみると、10-20 代の若年層 (N=268) では、「家族・友人などに誘われた」ことがきっかけであった割合が 29.9%と、他の年代 (30-40 代 : 17.9%、50-60 代 : 13.5%) よりも有意に高かった ($p<0.0001$)。

以上の結果より、今回調査対象とした広島大学医療系学部においては、高学年の学生における献血経験率は 30.9%と高く、また、献血に関連する基本的な知識についてはほぼ全員が持っており、「学校の授業等」が献血を知ったきっかけであった学生が 43.3%と一般若年層献血者集団 (27.2%) よりも高率であったことから、同学医療系学部における教育や経験が、学生の献血に対する理解・関心を高めている可能性が示唆された。全国の医療系大学生においても同様に献血への理解が十分なされていることが望まれるが、広島大学では、「血液センター職員による講義」や「献血促進に関するポスターの掲示」、「献血推進を行っている学生団体、クラブ、サークル等の支援」、「献血を頻回に行っている医学部学生の表彰」など、献血教育に積極的に取り組んできていることから、全国の医療系大学生と比較し献血に関する意識が高い可能性もある。各医療系大学の教育の中で献血の重要性について学ぶ機会がどのように設けられているのかは把握されておらず、今後調査が必要である。

献血ルームにおける調査結果から、若年層は献血行動において、他の年代と比べ、家族・友人など周囲からの影響を受けやすいことが示され、家族や友人同士で話題となるような献血環境作りが、若年層の献血未経験者への献血促進に効果的だと考えられた。また、それらの環境を、学校の授業やホームページ、SNSを通して伝えていくことが有効と考えられた。

A. 研究目的

若年層の献血離れ対策のために厚生労働省研究班の研究の一環として我々は2009年に献血に関する意識調査¹⁾を行い、献血に関する知識やイメージ不足が若年層における献血実施の障壁となっている可能性を指摘した。これまで、厚生労働省、地方公共団体および日本赤十字社等により若年層に対する献血推進活動としてさまざまな取組が行われているが、依然若年層の献血者数は減少傾向にあり、血液製剤の安定供給を将来に亘って確保するため若年層に対する献血の推進は引き続き重要課題である。また、将来医療の担い手となる医学・薬学系の学生等には、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらう必要があるが、医療系大学生の献血への意識および献血行動についてはこれまで十分把握されていない。

本研究では、医療系大学生を対象に献血に関する意識調査を実施し、医療系大学生の献血に関する意識、知識、行動を明らかにすること、および献血ルームを訪れた献血希望者に対して初回献血時の動機を調査することで、若年層に対する献血導入に必要な「きっかけ」を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 【医療系大学生を対象とした調査】

調査の対象は2019年度に広島大学に在籍している医学部(1,3,4,6年生)・歯学部(2,3,4,5年生)・薬学部(1-6年生)の全学生とした。学部・学年別の学生数、配布数、回収数を表1に示した。

全員が必修となっている講義科目の講義開始時に本調査への協力を依頼し、無記名自記式調査票を配布、回収箱を講義室内に設置し配付同日に回収した。

調査票に含まれる項目は、献血への関心、献血の知識、献血広告媒体の認知度、献血経験、さらに献血未経験者に対してはその理由、献血経験者に対しては初回献血時のきっかけなど合計17項目である(図-1、別添資料1)。なお、献血の知識に関する4項目については、平成23年に厚生労働省が実施した若年層献血意識調査²⁾項目と共通の内容とした。

調査は2019年6月から7月にかけて実施した。

表1 医療系大学生の対象者と配布数

対象者	学生数	配布数	回収数	回収率
医学部医学科 1年	120	119	114	95.8%
医学部医学科 3年	120	79	67	84.8%
医学部医学科 4年	120	92	58	63.0%
医学部医学科 6年	120	124	59	47.6%
歯学部歯学科 2年	53	43	26	60.5%
歯学部歯学科 3年	53	47	27	57.4%
歯学部歯学科 4年	53	45	40	85.1%
歯学部歯学科 5年+歯学部口腔健康学科 3年	93	73	59	80.8%
歯学部口腔健康学科 2年	40	36	35	97.2%
歯学部口腔健康学科 4年	40	21	21	100%
薬学部 1~6年	360	360	225	70.0%
	計1172	計1039	計731	70.4%

2. 【献血ルームにおける調査】

調査実施期間内に広島市内および大阪市内の調査対象献血ルームを訪問したすべての献血希望者を対象とした。対象者の年齢は 16 歳～69 歳である。

献血を申し込んだ全員に対して窓口で無記名自記式調査票を配布し、献血ルーム内に設置した調査票回収箱により配付同日に回収した。

調査内容は、【医療系大学生を対象とした調査】と共通する 14 項目に、「また献血をしたいか」を加えた全 15 項目とした（図-1、別添資料 1）。

《サンプルサイズ》

目標症例数は、広島市、大阪市それぞれ 600 例とした。

設定根拠：10,20 代の若年層の献血に関する知識を有する見込み割合を先行調査²⁾より 72.1%と仮定し、絶対精度を 8%として求めると、必要なサンプルサイズは 120 例となる。20 代以下が献血者数全体に占める割合が 2 割である³⁾ことから、全体として必要なサンプルサイズは 600 例となる。広島市、大阪市の地域差も検討するため、広島市(2ヶ所)、大阪市(3ヶ所)、にお

いてそれぞれ 600 例、合計 1,200 例を目標症例数とした。

$$\frac{(1-0.721) \times 0.721 \times 1.96^2}{0.08^2} \approx 118$$

(1)広島市内献血ルーム 2か所

調査場所：献血ルームもみじ、
献血ルームピース

調査期間：2019年7月13-15日

調査対象者：調査対象期間中に訪れた献血ルーム来訪者合計 600人

(2)大阪市内献血ルーム 3か所

調査場所：阪急グランドビル 25 献血ルーム、
御堂筋献血ルーム
CROSS CAFÉ、
まいどなんば献血ルーム

調査期間：2019年9月

調査対象者：調査対象期間中に訪れた献血ルーム来訪者合計 600人

本研究は広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得ている (E-1631 号)。

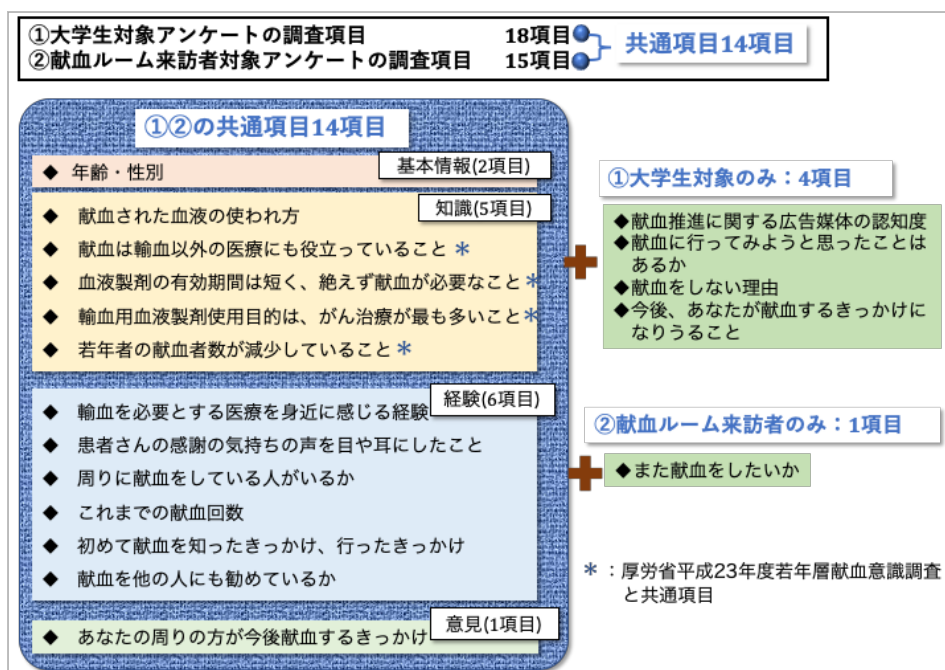


図-1 アンケート項目

C. 研究結果

1) 解析対象者

【医療系大学生における調査】では、医療系大学生 1,039 人（医学部 414 人、歯学部 265 人、薬学部 360 人）に配付し 731 人（医学部 298 人、歯学部 208 人、薬学部 225 人）より回答を得た（回収率 70.4%）。性別の内訳は、男性 329 人（45%）、女性 392 人（53.6%）であった。

【献血ルームにおける調査】では、広島市内献血ルーム来訪者 600 人、大阪市内献血ルーム来訪者 615 人に配付し、それぞれ 599 人（男性 69.3%、女性 30.6%）、615 人（男性 53.7%、女性 45.5%）より回答を得た。献血者に占める若年層（10-20 代）の割合は、広島市内献血ルームの 17.7%と比べ、大阪市内献血ルームでは 26.3%と有意に高かった（ $p=0.0002$ ）（図-2,3）。

広島市内献血ルーム来訪者の 78.6%、大阪市内献血ルーム来訪者の 61.6%はこれまでの献血回数が 10 回以上であった（図-4）。献血回数 10 回以上の人の中で若年層（10,20 代）の割合は、11.6%であった。

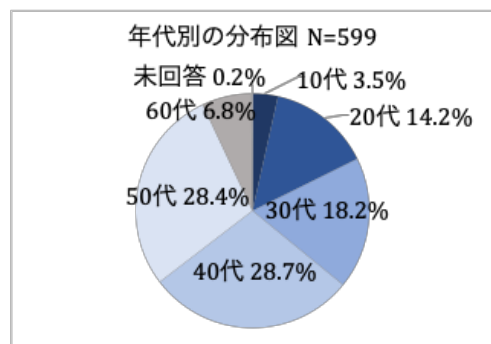


図-2 献血ルーム来訪者の年代別分布-広島-

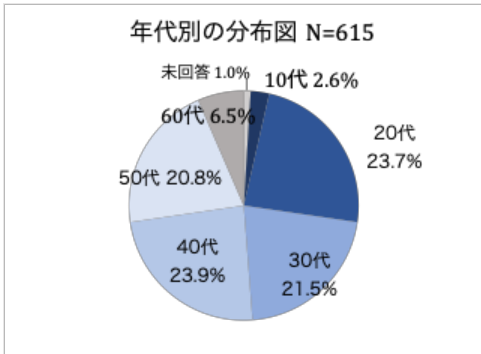


図-3 献血ルーム来訪者の年代別分布-大阪-

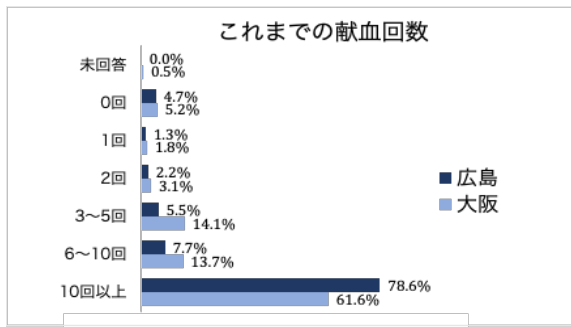


図-4 献血ルーム来訪者 これまでの献血回数 (広島・大阪)

2) 【医療系大学生における調査】結果

(1) これまでの献血経験

献血経験ありと回答した学生は、731人中177人(24.4%)であった。学年別にみると、1年生が最も少なく19.8%、6年生が最も多い30.9%であり、高学年において献血経験率が有意に高い傾向があった($p=0.0202$) (図-5)。

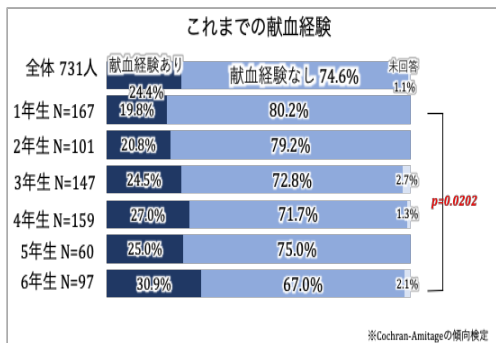


図-5 医療系大学生の献血経験

(2) 献血未経験者における献血意志

献血未経験者545人の中で「これまで献血に行ってみようと思ったことはある」と答えた人は、280人(51.4%)であった。(図-6)。

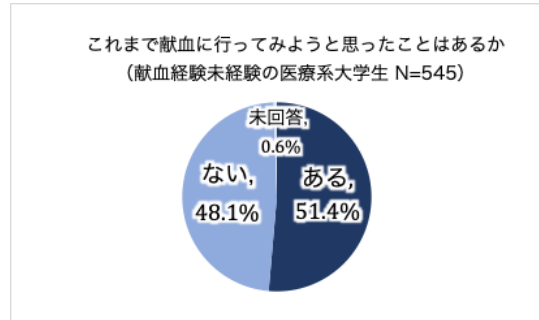


図-6 医療系大学生 (献血未経験者 N=545) における献血意志

(3) 献血をしない理由 (複数回答可)

献血未経験者545人において、「献血をしない理由」として最も多かったのが、「針や採血が痛くて嫌」41人(32.1%)、「時間がかかりそう」40人(27.9%)であった。

また、学年別にみると、「海外渡航等による献血制限により献血したくてもできない」が高学年に有意に高く($p=0.0327$)、「どこで献血できるか分からない」は低学年に有意に高い傾向がみられた($p=0.0052$) (図-7)。

(4) 今後献血するきっかけとなり得る条件 (複数回答可)

献血経験のない学生(N=545)が、「今後、献血するきっかけとなり得る」条件としては、「献血しているところが入りやすい雰囲気になる」(35.4%)が最も多く、次いで「近くに献血する場所ができる」(34.3%)であった。学年別にみると、「献

血ルームの時間が短くなる」は高学年に有意に高い傾向がみられた (p=0.0091) (図-8)。

めて献血を知ったきっかけとして最も多かったのは「学校の授業等」(43.3%)であり、次いで「街頭での広報活動、呼び込み」(33.7%)、「家族・友人から聞いた」(32.6%)であった。

- (5) 献血経験者が初めて献血を知ったきっかけ (複数回答可)
 献血経験のある学生 (N=178) が、初

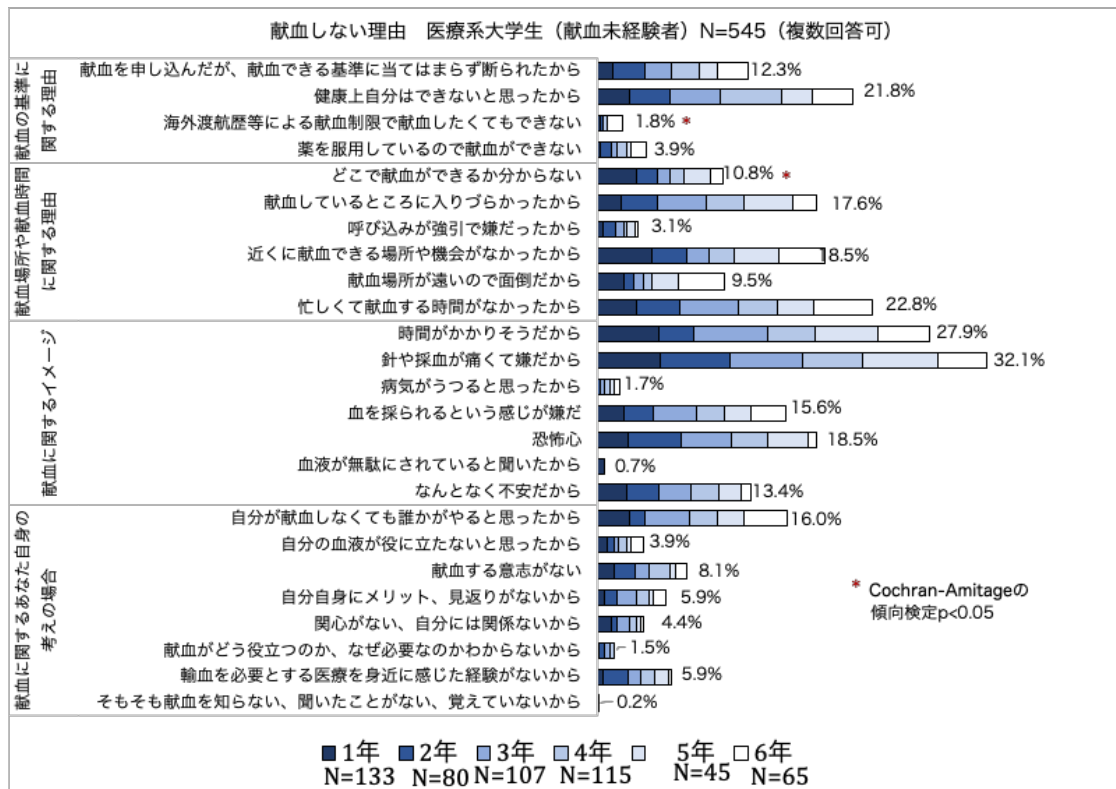


図-7 献血をしない理由-医療系大学生-

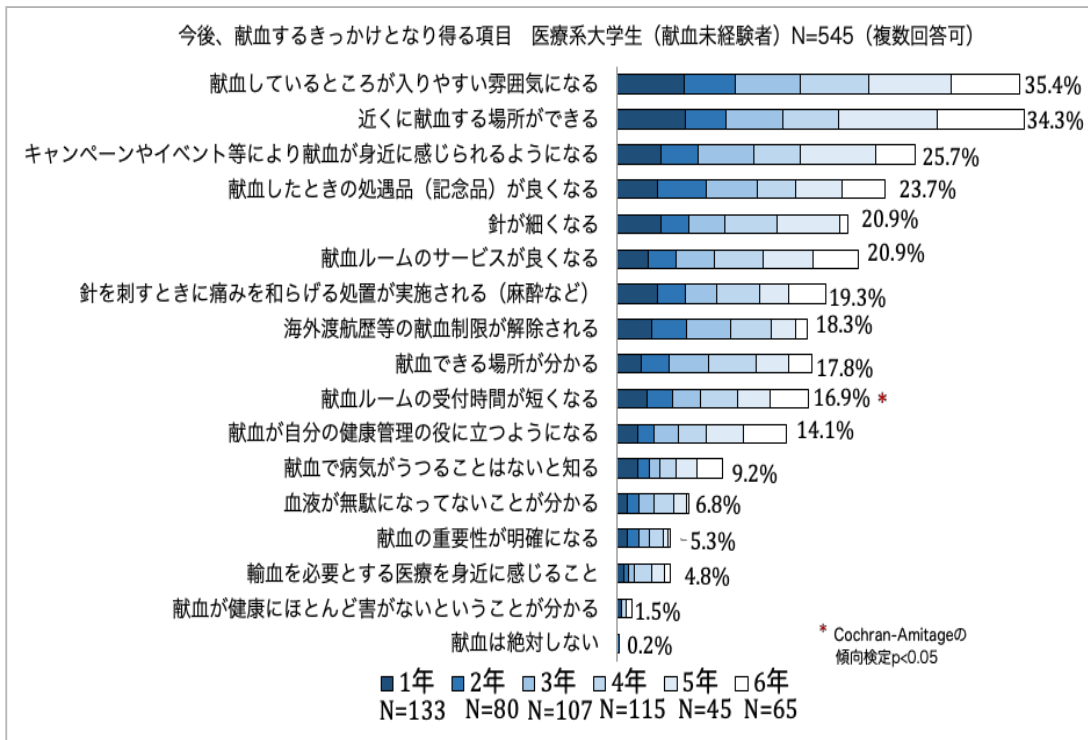


図-8 今後献血するきっかけとなり得る条件-医療系学生-

(6) 献血に関連する知識

医療系大学生 731 人のうち、「献血が輸血だけでなく血液製剤としてさまざまな病気の治療に役立っていること」については 68.9%、「輸血用血液製剤の有効期限は短く、絶えず献血が必要なこと」については 71.8%、「輸血用血液製剤使用目的は、がんなどの病気の治療が最も多いこと」については 38.7%の学生が「知っている」と回答した。学年別にみると、い

ずれの項目についても高学年において認知率が有意に高く、6 年生 (N=97) では、「献血が輸血だけでなく血液製剤としてさまざまな病気の治療に役立っていること」については 96.9%、「輸血用血液製剤の有効期限は短く、絶えず献血が必要なこと」については 97.9%、「輸血用血液製剤使用目的は、がんなどの病気の治療が最も多いこと」については 71.1%の学生が認知していた (図-9)。

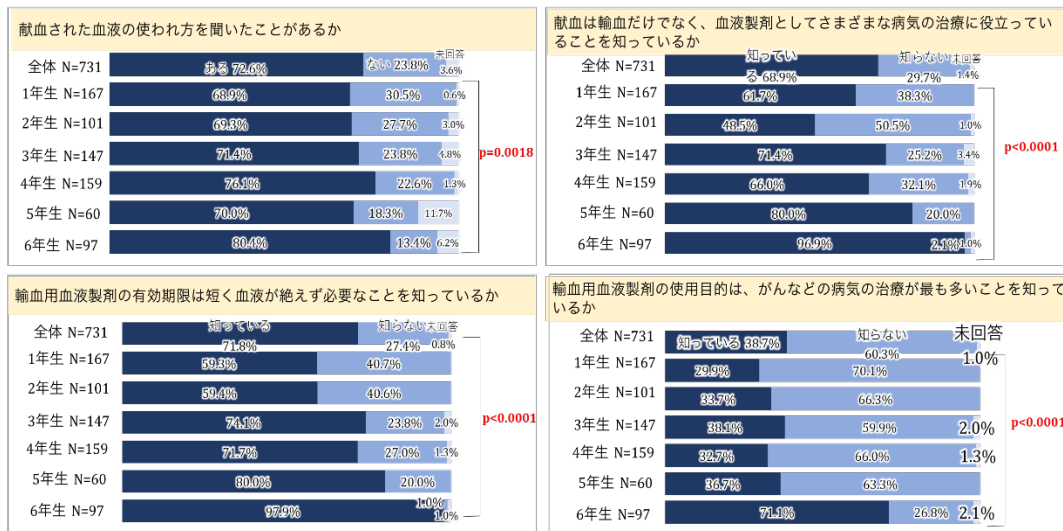


図-9 献血に関する知識 医療系大学生—学年別の比較—

(7) 若年層の献血協力者の減少傾向の認知
「若年層の献血協力者の減少傾向」については、医療系大学生のうち献血未経験者では1・2年生(N=214)の40.2%、3・4年生(N=221)の47.1%、5・6年生(N=110)の64.5%、献血経験者では1・2年生(N=54)の74.1%、3・4年生(N=78)の61.5%、5・6年生(N=45)の71.1%が認知していた。献血経験者においては、学年別の認知度に有意差を認

めなかったが(p=0.6779)、献血未経験者においては、高学年ほど認知度が高かった(p<0.0001)(図-10)。
「若年層の献血協力者の減少傾向」を認知していて献血経験のない医療系大学生は、261人(35.7%)であり、そのうち「これまでに献血に行ってみようと思ったことがある」人は150人(57.5%)であった。

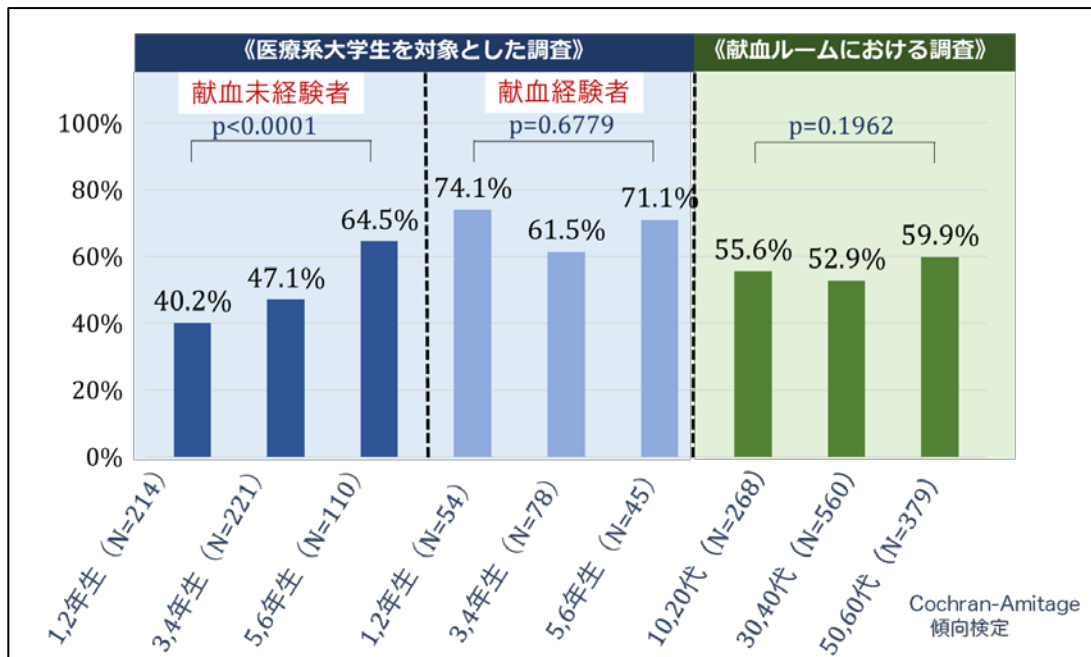


図-10 若年層の献血協力者の減少傾向 認知度

(8) 献血経験の有無に関連する因子の探索
 単変量、多変量解析を用いて、献血経験の有無に関連する因子の探索を行った。対象者は、献血経験未回答者8人を除く医療系大学生723人とした。目的変数を献血経験の有無とし、説明変数

26項目のうち性別、学年は強制投入、残りの24項目については、Stepwise法の変数選択により決定した(図-11)。

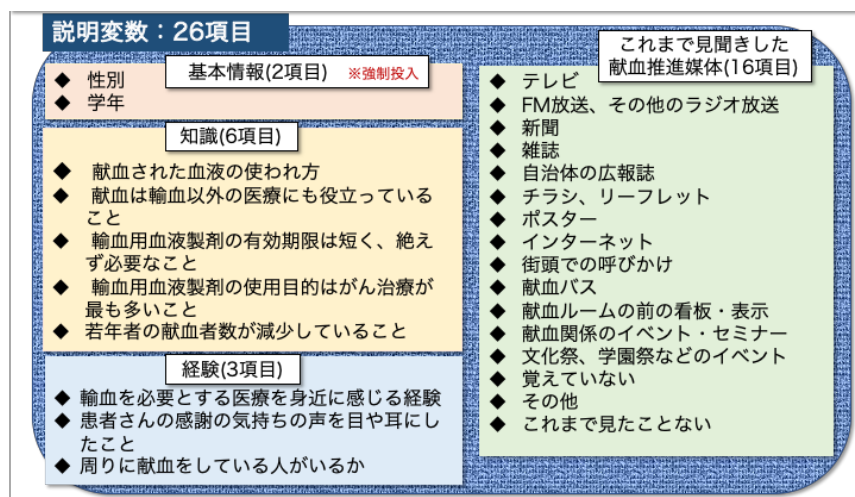


図-11 献血経験の有無に関連する因子の探索(単変量・多変量解析)に用いた説明変数

Stepwise 法の変数選択により 24 項目中 9 項目が選択された。選択された 9 項目と性別、学年を説明変数とし、単変量解析、多変量解析を行った。その結果、「男性」(AOR: 2.7、95%CI:1.8-4.0、 $p < 0.0001$)、「輸血用血液製剤の有効期限は短く絶えず献血が必要なことを知っている」(AOR:1.9、95%CI:1.1-3.2、 $p = 0.0267$)、「輸血用血液製剤使用目的は、がん治療が最も多いことを知っている」

(AOR:1.7、95%CI:1.1-2.5、 $p = 0.013$)、「若年層の献血者が減少していることを知っている」(AOR:1.6、95%CI:1.1-2.5、 $p = 0.0166$)、「献血ルーム前の看板・表示を見たことがある」(AOR:1.8、95%CI:1.2-2.7、 $p = 0.003$)、「周りに献血をしている人がいる」(AOR:2.1、95%CI:1.3-3.4、 $p = 0.0015$)の 6 項目が献血経験に有意に関連する因子として示された(表 2)。

表 2. 医療系大学生の献血経験の有無に関連する因子に関する単変量・多変量解析結果

				単変量解析		多変量解析		
		献血経験あり N(%)	献血経験なし N(%)	OR[95%CI]	P値	AOR [95%CI]	P値	
性別	男性	103(31.4%)	225(68.6%)	2.0[1.4-2.8]	<0.0001	2.7[1.8-4.0]	<0.0001	
	女性	73(18.67%)	318(81.33%)	1		1		
学年	1年	33(19.88%)	133(80.12%)	1		1		
	2年	21(20.79%)	80(79.21%)	1.05[0.6-2.0]	0.8571	1.7[0.8-3.3]	0.1401	
	3年	36(25.17%)	107(74.83%)	1.4[0.8-2.3]	0.2518	1.6[0.9-2.9]	0.1245	
	4年	42(26.75%)	115(73.25%)	1.4[0.8-2.4]	0.1837	1.4[0.8-2.6]	0.1955	
	5年	15(25.00%)	45(75.00%)	1.3[0.4-0.7]	0.4069	1.1[0.5-2.5]	0.7558	
	6年	31(32.29%)	65(67.71%)	1.3[0.7-2.4]	0.4608	1.0[0.5-1.9]	0.9863	
献血された血液の使われ方		ある	148(27.92%)	382(72.08%)	2.2[1.4-3.5]	0.0006	1.6[0.9-2.6]	0.0929
		ない	26(15.03%)	147(84.97%)	1			
血液製剤確保のために、絶えず献血が必要なこと		知っている	156(29.77%)	368(70.23%)	3.4[2.1-5.5]	<0.0001	1.9[1.1-3.2]	0.0267
		知らない	22(11.06%)	177(88.94%)	1		1	
輸血用血液製剤使用目的はがん治療が最も多いこと		知っている	99[35.11%]	183[64.89%]	2.5[1.8-3.5]	<0.001	1.7[1.1-2.5]	0.0130
		知らない	79[17.95%]	361[82.05%]	1		1	
若年者の献血者数が減少していること		知っている	120(31.41%)	262(68.59%)	2.2[1.6-3.2]	<0.0001	1.6[1.1-2.5]	0.0166
		知らない	58(17.06%)	282(82.94%)	1			
献血に関する 広告接触媒体 (複数回答可)	テレビ	ある	127(23.56%)	412(76.44%)	0.8[0.6-1.2]	0.2586	0.7[0.5-1.1]	0.1661
		ない	51(27.72%)	133(72.28%)	1		1	
	献血ルーム前の 看板・表示	ある	110(31.25%)	242(68.75%)	2.0[1.4-2.9]	<0.0001	1.8[1.2-2.7]	0.0030
		ない	68(18.33%)	303(81.67%)	1		1	
周りに献血をしている人がいるか		いる	144(29.75%)	340(70.25%)	2.8[1.8-4.2]	<0.0001	2.1[1.3-3.4]	0.0015
		いない	30(13.33%)	195(86.67%)	1		1	

ステップワイズ適用前の項目数：26 項目、適用後の項目数：9 項目

3) 【献血ルームにおける調査】結果

(1) 初めて献血した年齢、場所

献血ルーム来訪者（広島・大阪 合計 N=1,214）が初めて献血した年齢は、10代 40.7%、20代 41.1%であり、30歳以上で初めて経験をした人は全体の 12.5%であった。

初めて献血した場所は「献血ルーム」が最も多く 42.6%、次いで「献血バス」32.0%であった。10-20代の若年層（N=268）だけをみると、「献血ルーム」の割合が 67.2%と高く、次いで「献血バス」が 21.3%であった。

初めて献血したときの同伴者については「一人で行った」が最も多く 49.9%、次いで「友人」23.3%であった。10-20代の若年層（N=268）だけをみると、「一人で行った」が最も多く 53.0%、次いで「友人」21.6%であったが、「家族・親戚」と一緒に行ったという回答（15.7%）がでは他の年代よりも有意に多かった（30-40代：7.5%、50-60代：6.3%、 $p=0.0001$ ）。

(2) 献血に関連する知識

献血ルーム来訪者（広島・大阪 合計 N=1,214）のうち、「献血が輸血だけでなく血液製剤としてさまざまな病気の治療に役立っていること」については 69.4%、「輸血用血液製剤の有効期限は短く、絶えず献血が必要なこと」については 73.1%、「輸血用血液製剤使用目的は、がんなどの病気の治療が最も多いこと」については 43.8%が「知っている」と回答した。

(3) 若年層の献血協力者の減少傾向の認知

「若年層の献血協力者の減少傾向」については、献血ルーム（広島市内 2 か所& 大阪市内 3 か所）来訪者（N=1,214）のうち、10-20代（N=268）の 55.6%、30-40代（N=560）の 52.9%、50-60代（N=379）の 59.9%が認知していた。年代別にみた認知度に有意差は認めなかった（ $p=0.1962$ ）（図-10）。

(3) 初めて献血を知ったきっかけ

献血ルーム来訪者（広島・大阪 合計 N=1,214）において「初めて献血を知ったきっかけ」は、全体では「献血バス」が最も多く 47.3%、次いで「街頭での広報活動・呼び込み」30.2%であったが、年代別にみると、10-20代の若年層（N=268）では、「家族・友人から聞いた」ことがきっかけであった割合が 44.0%と、他の年代（30-40代：27.0%、50-60代：15.6%）よりも有意に高かった（ $p<0.0001$ ）。他に、10-20代の若年層では「学校の授業等」「ホームページ、SNS」をきっかけに献血のことを知ったという回答（それぞれ 27.2%、6.3%）が他の年齢層と比べ有意に多く（ $p<0.0001$ 、 $p=0.0001$ ）、逆に「新聞・テレビ等の報道」がきっかけであったという回答（10.1%）は他の年齢層と比べ有意に少なかった（ $p=0.0138$ ）（図-12）。

(4) 初めて献血に行ったきっかけ

献血ルーム来訪者（広島・大阪 合計 N=1,214）において「初めて献血に行ったきっかけ」は、全体では「自分の血液がだれかの役に立ってほしいから」が最も多く 54.6%、次いで「輸血用の血液が不

足しているから」27.5%であったが、年代別にみると、10-20代の若年層(N=268)では、「家族・友人などに誘われた」ことがきっかけであった割合が

29.9%と、他の年代(30-40代:17.9%、50-60代:13.5%)よりも有意に高かった(p<0.0001)(図-13)。

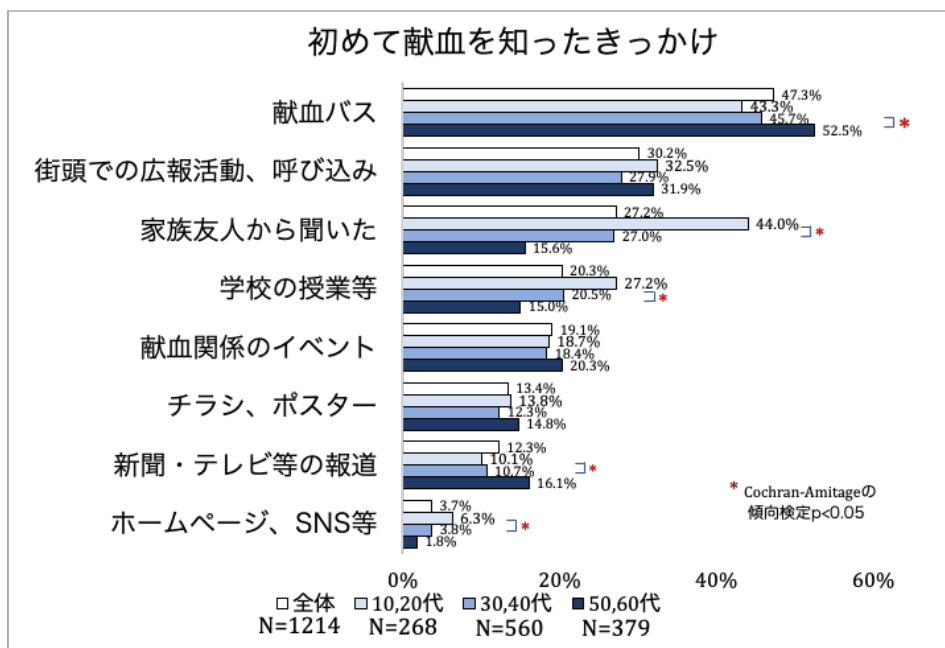


図-12 献血を知ったきっかけ-献血ルーム来訪者-年代別の比較 (広島+大阪)

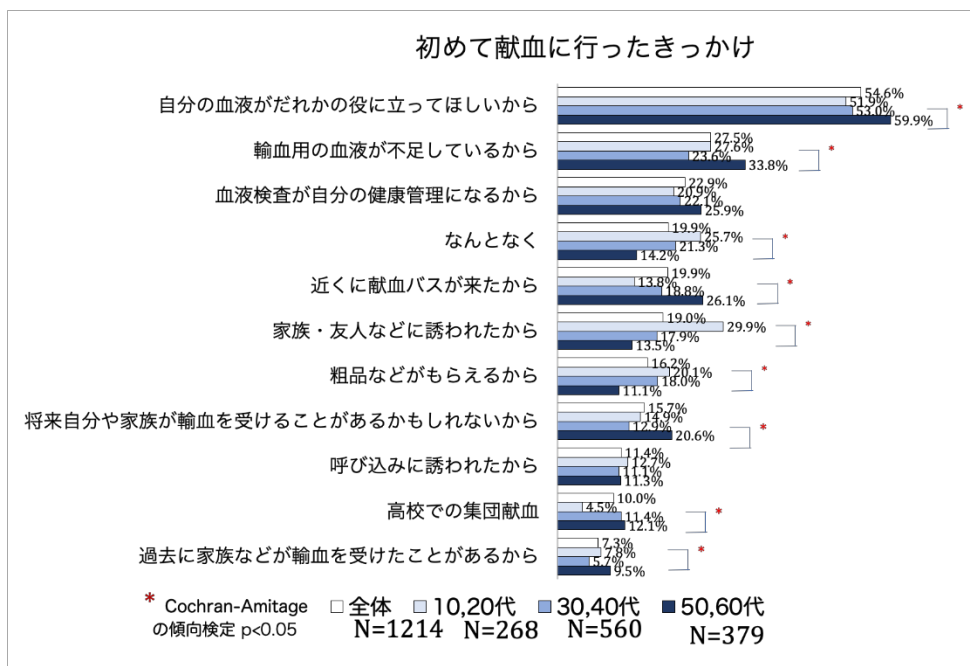


図-13 献血に行ったきっかけ-献血ルーム来訪者-年代別の比較 (広島+大阪) -

D. 考察

広島大学医・歯・薬学部の全 1,172 人を対象とした意識調査を実施し、1,039 人に調査票を配布、731 人（医学部 298 人、歯学部 208 人、薬学部 225 人）より回答を得た（回答率 70.4%）。その結果、広島大学の医療系学部における学生の献血経験率は、24.4%であり、平成 28 年度日本赤十字社報告の一般若年層（10 代、20 代）の献血率（それぞれ 5.2%、6.2%）²⁾の 3.9-4.7 倍の水準であった。

高学年の学生における献血経験率は 30.9%とさらに高く、また、献血に関連する基本的な知識についてはほぼ全員が持っていた。「学校の授業等」が献血を知ったきっかけであった学生が 43.3%と一般若年層献血者集団（27.2%）よりも高率であったことから、広島大学医療系学部における教育や経験が、学生の献血に対する理解・関心を高めている可能性が示唆された。全国の医療系大学生においても同様に献血への理解が十分なされていることが望まれるが、広島大学では、「血液センター職員による講義」や「献血促進に関するポスターの掲示」、「献血推進を行っている学生団体、クラブ、サークル等の支援」、「献血を頻回に行っている医学部学生の表彰」など、献血教育に積極的に取り組んできていることから、全国の医療系大学生と比較し献血に関する意識が高い可能性もある。各医療系大学の教育の中で献血の重要性について学ぶ機会がどのように設けられているのかは把握されておらず、今後調査が必要である。

献血ルームにおける調査では、広島市内 2 か所、大阪市内 3 か所の献血ルームにて、

来訪者合計 600 人を対象とした調査を実施し、広島市では 599 人、大阪市では 615 人より回答を得た。10-20 代の若年層が全体に占める割合は、広島市内献血ルームでは 17.7%、大阪市内献血ルームでは 26.3%であり、平成 30 年度全国年代別献血率（日本赤十字社調べ/厚生省作成）の若年層割合（20.9%）⁴⁾と比べて、大阪では若年層の割合が高かった。

初めて献血をしたきっかけとして、10-20 代の若年層が他の年代よりも有意に多かった項目は、「家族・友人から聞いた」「家族・友人に誘われた」であった。同じく若年層である医療系大学生においても、「周りに献血をしている人がいる」ことが献血経験に有意に関連する項目として挙げられた。これらの結果より、若年層は献血行動において、他の年代と比べ、家族・友人など周囲からの影響を受けやすいことが示唆された。家族や友人同士で話題となるような献血環境作りが、若年層の献血未経験者への献血促進に効果的と考えられた。また、話題となるような献血環境を、若年層の目の触れる機会の多い「学校の授業」「ホームページ、SNS」などを通して、発信することも効果的と考えられた。

E. 結論

今回調査対象とした広島大学医療系学部においては、高学年の学生における献血経験率は 30.9%と高く、また、献血に関連する基本的な知識についてはほぼ全員が持っていた。「学校の授業等」が献血を知ったきっかけであった学生が 43.3%と一般若年層献血者集団（27.2%）よりも高率であっ

たことから、同学医療系学部における積極的な献血教育や取組が、学生の献血に対する理解・関心を高めている可能性が示唆された。全国の医療系大学生においても同様に献血への理解が十分なされていることが望まれるが、今後調査が必要である。

献血ルームにおける調査結果からは、若年層は献血行動において、他の年代と比べ、家族・友人など周囲からの影響を受けやすいことが示され、家族や友人同士で話題となるような献血環境作りが若年層の献血未経験者への献血促進に効果的だと考えられた。また、それらの環境を、学校の授業やホームページ、SNSを通して伝えていくことが有効と考えられた。

F. 参考文献

1. 田中純子・他：献血に関する意識調査 2009. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究「献血推進のための効果的な広報戦略等の開発に関する研究」 班報告書. 2010.
2. 厚生労働省平成 23 年度若年層献血意識調査
chromeextension://ohfgljldgelakf-kefopgklcohadegdpjf/https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000020ipe-att/2r98520000020j6a.pdfhttps://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000070049.html
3. 日本赤十字社 献血率の年齢別の推移
chromeextension://ohfgljldgelakf-kefopgklcohadegdpjf/https://www

w.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-lyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000109388_2.pdf

4. 厚生労働省 年代別献血者数と献血量の推移
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000063233.html

G. 健康危険情報

特になし

H. 研究発表

野村悠樹、杉山文、阿部夏音、今田寛人、増本文、秋田智之、鹿野千治、喜多村祐里、白坂琢磨、田中純子. 医療系大学生及び献血ルーム来訪者を対象とした献血行動に関する意識調査パイロット研究. 第 30 回日本疫学会学術総会, 京都, 2020

I. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

大学生対象調査



献血に関する意識調査 2019



【調査ご協力をお願い】

日本では病気などの治療のために1日平均で約3,000人もの人が輸血を受けています。
医学が進歩した現代においても、『血液』を人工的に造ることはできず、
輸血用血液製剤の確保については、
自発的な無償の血液提供である『献血』に頼るほかありません。
しかし、近年、10代～30代の献血者数が減少しています。
血液製剤は医療になくてはならないものですので、
血液が足りなくなって患者さんに届けられない、という事態は
どうしても避けなければならない、
これからの社会を支える若年層の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています。
その課題解決への取り組みとして、
本研究班では若年層の献血に関する意識調査を実施することになりました。
皆様の声をもとに、献血の推進に役立てたいと思いますので
以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

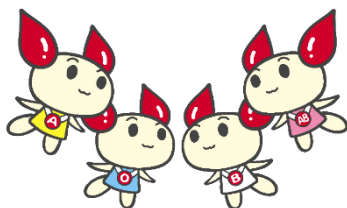
- ◇ 本研究は広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得ています。
- ◇ 本研究は無記名自記式調査であり、あなたの回答が他人に知られることは一切ありません。思ったこと、感じたことを率直にお答えください。
- ◇ 質問は全部で17項目です。回答はすべて統計的に処理され、個人を特定するようなことはありません。
- ◇ 本調査への回答は任意です。回答したくない質問項目には回答していただくなくても構いません。また、回答を途中でやめたくなった場合には、いつでもやめていただくことができます。
- ◇ 本調査票への回答をもって調査にご同意いただいたものとさせていただきます。

厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
『新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究』

代表研究者

広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

田中 純子



【お問い合わせ先】「献血に関する意識調査 2019」事務局
広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学
〒734-8551 広島県広島市南区霞1丁目2番3号
TEL 082-257-5162 FAX 082-257-5164

本研究は無記名自記式調査です。

本調査票への回答をもって調査にご同意いただいたものとしてよろしいでしょうか（はい・いいえ）

以下の設問 Q1~Q17 にお答えください。

Q1. あなた自身のことについて以下の（ ）に回答してください。

- ◆ 年齢（ ）歳
- ◆ 性別（男性・女性）
- ◆ （ ）学部（ ）学科
- ◆ 学年（ ）年

Q2. あなたは献血された血液がどのような使われ方をするのかを聞いたことがありますか。

- ① 聞いたことがない
- ② 聞いたことがある

どこで聞きましたか？該当するすべてに○をしてください。

献血に協力したとき、授業等、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、
インターネット、家族/友人から、街頭での呼びかけ、
献血関係のイベント、その他（ ）

Q3. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

- ① 知っている
- ② 知らない

Q4. あなたは、輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をしたことがありますか。

- ① ある
- ② ない

どのような経験でしょうか？該当するすべてに○をしてください。

(ア) 自分あるいは身近な人が手術を受けた
(イ) 自分あるいは身近な人がケガや病気の治療で輸血を受けた
(ウ) 学校の授業で輸血を必要とする医療の現場を実際にみた
(エ) テレビなどの情報媒体で輸血を必要とする医療について見聞きした
(オ) その他（ ）

Q5. 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なことを知っていますか。※血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

- ① 知っている
- ② 知らない

Q11. あなた自身のこれまでの献血経験回数について該当する番号に○をしてください。

- ① 0回 → 次の Q12 にお進みください → 次ページへ
 - ② 1回
 - ③ 2回
 - ④ 3~5回
 - ⑤ 6~10回
 - ⑥ 10回以上
- 8 ページへ

- (14) 血を採られるという感じが嫌だ
- (15) 恐怖心
- (16) 血液が無駄にされていると聞いたから
- (17) なんとなく不安だから
- その他 ()

◆ あなたがこれまで献血を経験したことがない理由が
献血に対するあなた自身の考えの場合：

- (18) 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
- (19) 自分の血液が役に立たないと思ったから
- (20) 献血する意志がない
- (21) 自分自身にメリット、見返りが無いから
- (22) 関心がない、自分には関係ないから
- (23) 献血がどう役立つのか、なぜ必要なかわからないから
- (24) 輸血を必要とする医療を身近に感じた経験がないから
- (25) そもそも献血を知らない、聞いたことがない、覚えていないから
- その他 ()

Q14.あなたが今後献血するきっかけとなり得ることがあるとすれば、どんなことでしょうか。あなたの意見を以下の空欄に記載してください。

あなたが今後献血するきっかけとなり得る項目として、該当する番号すべてに○をしてください。

- (1) 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
- (2) 近くに献血する場所ができた
- (3) キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
- (4) 献血の重要性が明確になった
- (5) 血液が無駄になってないことが分かった
- (6) 針が細くなった
- (7) 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）

- (8) 献血で病気がうつることはないと思った
- (9) 献血ルームの受付時間が短くなった
- (10) 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
- (11) 献血ルームのサービスが良くなった
- (12) 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
- (13) 海外渡航歴等の献血制限が解除された
- (14) 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
- (15) 献血できる場所が分かった
- (16) 輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をした
- (17) 献血は絶対しない

若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

質問は以上で終わりです。ご協力誠にありがとうございました。

Q11 において、これまでの献血経験回数が1回以上と答えた人がお答えください



献血を経験したことがある人が、以下の Q15～17 にお答えください

Q15. 初めて献血に行ったときのことについてお答えください

◆初めて献血に行ったのは何歳のときですか？ () 歳

◆初めて献血に行ったとき、だれと一緒に行了きましたか？

- ①家族/親戚 ②友人 ③恋人 ④先輩/後輩 ⑤知人
⑥その他 () ⑦ひとりで行った

◆初めて献血に行った場所はどこですか？

- ①高校での集団献血 ②献血ルーム (血液センター) ③献血バス
④覚えていない

◆初めて献血を知ったきっかけについて該当する番号すべてに○をしてください。

- ① 学校の授業等
② 献血関係のイベント
③ 家族/友人などから聞いた
④ 街頭での広報活動、呼び込み
⑤ 献血バス
⑥ チラシ、ポスター
⑦ 新聞・テレビ等の報道
⑧ ホームページ、SNS 等
⑨ 自分あるいは身近な人が輸血を必要とする医療を受けた
⑩ その他 ()

◆初めて献血に行ったきっかけについて該当する番号すべてに○をしてください。

- ① 自分の血液がだれかの役に立ってほしいから
② 輸血用の血液が不足しているから
③ 血液検査が自分の健康管理になるから
④ 粗品などがもらえるから
⑤ 過去に自分あるいは身近な人が輸血を受けたことがあるから
⑥ 将来自分や家族が輸血を受けることがあるかもしれないから
⑦ 家族・友人などに誘われたから
⑧ なんとなく
⑨ 呼び込みに誘われたから
⑩ 近くに献血バスが来たから
⑪ 通りがかり
⑫ その他 ()

Q16.あなたは献血を他の人にも勧めていますか？（はい いいえ）

Q16で「いいえ」と答えた方のみ回答してください。

献血を勧めない理由は何でしょう？該当する番号すべてに○をしてください。

- ①面倒くさい ②なんとなく ③気恥ずかしい
- ④自分も献血をしたくないから ⑤忘れてしまうから
- ⑥勧める相手がいない ⑦献血できる場所が遠い
- ⑧献血するためには時間がかかるので忙しい人に勧められない
- ⑨その他（ ）

Q17.あなたの周りの方が今後献血するきっかけとなり得ることがあるとすれば、どんなことでしょうか。あなたの意見を以下の空欄に記載してください。

あなた周りの方が今後献血するきっかけとなり得るとあなたが思う項目として、該当する番号すべてに○をしてください。

- (1) 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
- (2) 近くに献血する場所ができた
- (3) キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
- (4) 献血の重要性が明確になった
- (5) 血液が無駄になってないことが分かった
- (6) 針が細くなった
- (7) 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
- (8) 献血で病気がうつることはないと思った
- (9) 献血ルームの受付時間が短くなった
- (10) 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
- (11) 献血ルームのサービスが良くなった
- (12) 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
- (13) 海外渡航歴等の献血制限が解除された
- (14) 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
- (15) 献血できる場所が分かった

→次ページへ

(16) 輸血を必要とする医療を身近に感じることに

(17) 献血は絶対しない

若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

質問は以上で終わりです。ご協力誠にありがとうございました。

【本調査について】

- 研究課題名：献血に関する意識調査パイロット研究
- 研究期間：2019年4月～2021年3月
- 研究対象者の選定理由：本調査研究では、医療系大学生および非医療系大学生を対象とした意識調査（横断研究）を行い、大学生の学部学科別にみた献血行動および認識を比較検討します。また医療系大学生を学年別に比較することで、医療系大学での講義や実習を経験することによる献血に対する意識・行動の変化についてもあわせて調査します。
- 資金源：厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業『新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究』（主任研究者 所属 広島大学大学院医歯薬保健学研究科疫学・疾病制御学 職名 教授 氏名 田中純子）
- 利益相反：無



献血に関する意識調査 2019



【調査ご協力をお願い】

本日は、献血にご協力いただき、誠にありがとうございます。

日本では病気などの治療のために1日平均で約3,000人もの方が輸血を受けています。

医学が進歩した現代において、『血液』を人工的に造ることが可能にはなりましたが、輸血用血液製剤の確保については、人への輸血という観点から、まだまだ超えなければならないハードルは高く、自発的な無償の血液提供である『献血』に頼るほかありません。しかし、近年、10代～30代の献血者数が減少しており、これからの社会を支える若年層の方々にいかにして献血していただくかが喫緊の課題となっています。

その課題解決への取り組みとして、

本研究班では献血ルームに来られた皆様を対象とした、

「初回献血時のきっかけ」に関する調査を実施することになりました。

皆様の声をもとに、献血の推進に役立てたいと思いますので

以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

- ◇ 本研究は広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得ています。
- ◇ 本研究は無記名自記式調査であり、あなたの回答が他人に知られることは一切ありません。思ったこと、感じたことを率直にお答えください。
- ◇ 質問は全部で14項目です。回答はすべて統計的に処理され、個人を特定するようなことはありません。
- ◇ 本調査への回答は任意です。回答したくない質問項目には回答していただくなくても構いません。また、回答を途中でやめたい場合には、いつでもやめていただくことができます。
- ◇ 本調査票への回答をもって調査にご同意いただいたものとさせていただきます。

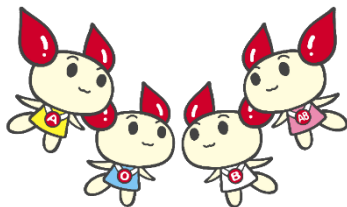
厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業

『新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究』

代表研究者

広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

田中 純子



【お問い合わせ先】「献血に関する意識調査 2019」事務局

広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学

〒734-8551 広島県広島市南区霞1丁目2番3号

TEL 082-257-5162 FAX 082-257-5164

本研究は無記名自記式調査です。

本調査票への回答をもって調査にご同意いただいたものとしてよろしいでしょうか
(はい・いいえ)

以下の設問 Q1~Q14 にお答えください。

Q1. あなた自身のことについて以下の () に回答してください。

- ◆ 年齢 () 歳
- ◆ 性別 (男性・女性)
- ◆ あなたは医療関係者ですか (はい ・ いいえ)

Q2. あなたは献血された血液がどのような使われ方をするのかを聞いたことがありますか。

- ① 聞いたことがない
- ② 聞いたことがある

↳ どこで聞きましたか？該当するすべてに○をしてください。

献血に協力したとき、授業等、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、
インターネット、家族/友人から、街頭での呼びかけ、
献血関係のイベント、その他 ()

Q3. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることをご存知ですか。

- ① 知っている
- ② 知らない

Q4. あなたは輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をしたことがありますか。

- ① ある
- ② ない

↳ どのような経験でしょうか？該当するすべてに○をしてください。

(ア) 自分あるいは身近な人が手術を受けた
(イ) 身近な人がケガや病気の治療で輸血を受けた
(ウ) 学校の授業などで輸血を必要とする医療の現場を実際にみた
(エ) 医療にかかわる仕事をしている
(オ) テレビなどの情報媒体で輸血を必要とする医療について見聞きした
(カ) その他 ()

Q5. 献血された血液によって作られる輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なことをご存知ですか。※血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

- ① 知っている ②知らない

Q6. 献血された血液によって作られる輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことをご存知ですか。

※輸血用血液製剤の傷病別用途については、「悪性腫瘍」(28.0%)、「循環器系」(15.1%)、「消化器系」(11.8%)の疾病が上位を占めています(厚生労働省、「平成30年度版血液事業報告」)

- ① 知っている ②知らない

Q7. 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝(献血してくれてありがとう)の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。

- ① ある ②ない ③おぼえていない

Q8. 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っていることをご存知ですか。

- ① 知っている ②知らない

※最近10年間で、20代の献血者数は118万人から78万人(34%減)に、10代の献血者数は37万人から25万人(32%減)も減少しています。

(厚生労働省.<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000063233.html>)

Q9. あなたの周りに献血している人はいますか？(いる・いない・わからない)

Q10. あなた自身のこれまでの献血経験回数について該当する番号に○をしてください。

- ① 0回(今日が初めての献血)
② 1回
③ 2回
④ 3~5回
⑤ 6~10回
⑥ 11回以上

→次ページへ

Q11.あなたが初めて献血に行ったときのことについてお答えください

◆初めて献血に行ったのはあなたが何歳のときですか？（ ）歳くらい

◆初めて献血に行ったとき、あなたはだれと一緒に行了きましたか？

- ①家族/親戚 ②友人 ③恋人 ④先輩/後輩 ⑤知人
⑥その他（ ） ⑦ひとりで行った

◆あなたが初めて献血に行った場所はどこですか？

- ①献血ルーム（血液センター） ②高校での集団献血 ③職場
④高校、職場以外での献血バス ⑤覚えていない

◆あなたが初めて献血を知ったきっかけについて該当する番号すべてに○をしてください。

- ① 学校の授業等
② 献血関係のイベント
③ 家族/友人などから聞いた
④ 街頭での広報活動、呼びかけ
⑤ 献血バス
⑥ チラシ、ポスター
⑦ 新聞・テレビ等の報道
⑧ ホームページ、SNS 等
⑨ その他（ ）

◆あなたが初めて献血に行ったきっかけについて該当する番号すべてに○をしてください。

- ① 自分の血液がだれかの役に立ってほしいから
② 輸血用の血液が不足していると聞いたから
③ 血液検査が自分の健康管理になるから
④ 粗品などがもらえるから
⑤ 過去に家族などが輸血を受けたことがあるから
⑥ 将来自分や家族が輸血を受けることがあるかもしれないから
⑦ 家族・友人などに誘われたから
⑧ なんとなく
⑨ 呼びかけに誘われたから

- ⑩ 近くに献血バスが来たから
- ⑪ 高校での集団献血
- ⑫ その他 ()

Q12. あなたは献血を他の人にも勧めていますか？ (はい ・ いいえ)

「いいえ」と答えた方のみ回答してください。

献血を勧めない理由として該当する番号すべてに○をしてください。

- ①面倒くさい ②なんとなく ③気恥ずかしい
- ④できれば自分も献血をしたくないから ⑤忘れてしまうから
- ⑥勧める相手がない ⑦献血できる場所が遠い
- ⑧献血するためには時間がかかるので忙しい人に勧められない
- ⑨自分も今日初めて献血に来たため
- ⑩その他 ()

Q13. あなたは今後また献血をしたいですか？ (はい ・ いいえ)

「いいえ」と答えた方のみ回答してください。

今後献血を希望しない理由として該当する番号すべてに○をしてください。

- ①時間がかかるから ②痛いから ③なんとなく
- ④献血できる場所が遠い ⑤面倒くさいから
- ⑥わからない
- ⑦その他 ()

Q14. あなたの周りの方が今後献血するきっかけとなり得ることがあるとすれば、
どんなことでしょうか。あなたのご意見を以下の空欄に記載してください。

→次ページへ

あなたの周りの方が今後献血するきっかけとなり得るとあなたが思う項目として、該当する番号すべてに○をしてください。

- ① 献血場所が現在よりもさらに入りやすい雰囲気になった場合
- ② あなたの周りの方のお住まいや学校・職場近くに献血する場所ができた場合
- ③ キャンペーンやイベント等により、あなたの周りの方にとって献血が身近に感じられるようになった場合
- ④ あなたの周りの方にとって献血の重要性が明確になった場合
- ⑤ あなたの周りの方が「血液が無駄になってないこと」を知った場合
- ⑥ 現在よりもさらに針が細くなった場合
- ⑦ 針を刺すときに痛みを和らげる処置（麻酔など）が実施されるようになった場合
- ⑧ あなたの周りの方が「献血で病気がうつることはない」と知った場合
- ⑨ 現在よりもさらに献血にかかる時間が短くなった場合
- ⑩ 現在よりもさらに献血したときの処遇品（記念品）が良くなった場合
- ⑪ 現在よりもさらに献血ルームのサービスが良くなった場合
- ⑫ あなたの周りの方にとって献血が健康管理の役に立つことを知った場合
- ⑬ 海外渡航歴等の献血制限が解除された場合
- ⑭ あなたの周りの方が「献血は健康にほとんど害がないこと」を知った場合
- ⑮ あなたの周りの方が「献血できる場所」がどこにあるのかを知った場合
- ⑯ あなたの周りの方が輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をした場合

- ◇ 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

質問は以上で終わりです。ご協力誠にありがとうございました。

【本調査について】

- 研究課題名：献血に関する意識調査パイロット研究
- 研究期間：2019年4月～2021年3月
- 研究対象者の選定理由：本研究では、パイロット的に献血ルームを訪れた献血希望者（全年齢）の「初回献血のきっかけ」を調査することで、献血未経験者に対する献血導入に必要な「きっかけ」について性別年齢階級別に明らかにし、若年層の献血離れ対策のための基礎資料とすることを目指しています。
- 資金源：厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業『新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究』（主任研究者 所属 広島大学大学院医歯薬保健学研究科疫学・疾病制御学 職名 教授 氏名 田中純子）
- 利益相反：無

別添資料 2 医療系大学生を対象とした調査結果

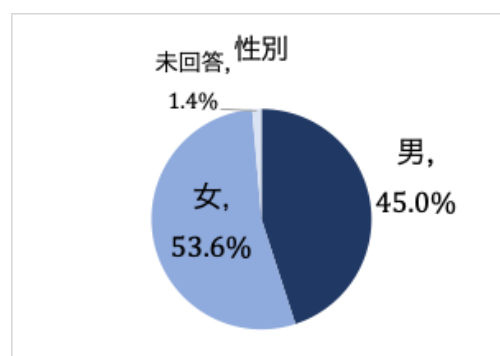
【医療系大学生を対象とした調査】

- 調査対象：広島大学医学部（1,3,4,6年生 全480人）・歯学部（2,3,4,5年生 全332人）・薬学部（1-6年生 全360人）の全1,172人を対象とし、1,039人に調査票を配布、731人（医学部298人、歯学部208人、薬学部225人）より回答を得た（回答率70.4%）。
- 調査実施期間：2019年6月～7月

【医療系大学生を対象とした調査結果】

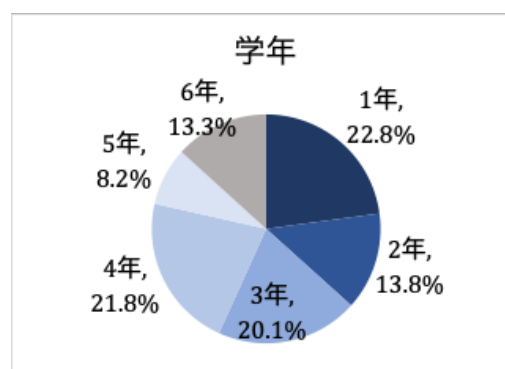
Q1 性別

	人数	割合
男性	329	45.0%
女性	392	53.6%
未回答	10	1.4%
総計	731	100%



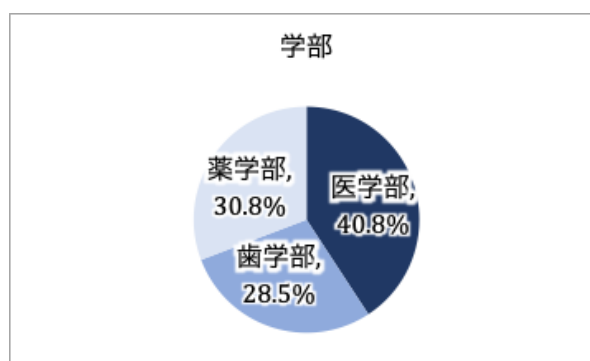
Q1 学年

	人数	割合
1年	167	22.8%
2年	101	13.8%
3年	147	20.1%
4年	159	21.8%
5年	60	8.2%
6年	97	13.3%
総計	731	100%



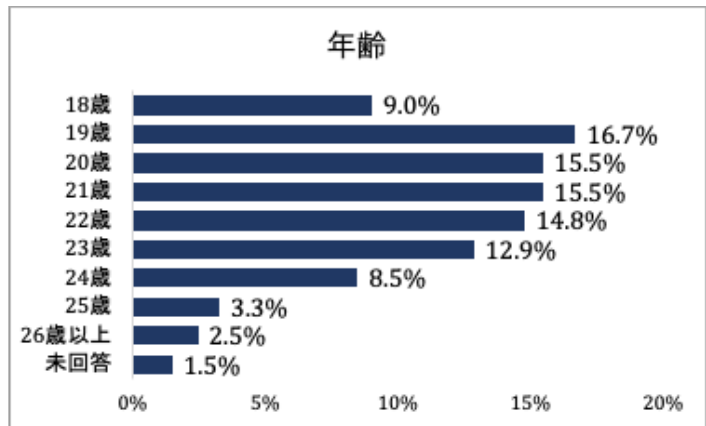
Q1 学部

	人数	割合
医学部	298	40.8%
歯学部	208	28.5%
薬学部	225	30.8%
総計	731	100.0%



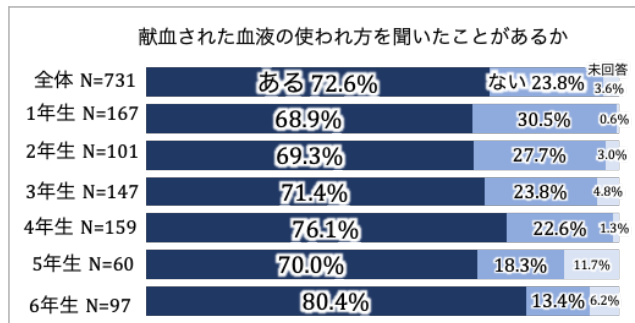
Q1 年齢

	人数	割合
18歳	66	9.0%
19歳	122	16.7%
20歳	113	15.5%
21歳	113	15.5%
22歳	108	14.8%
23歳	94	12.9%
24歳	62	8.5%
25歳	24	3.3%
26歳以上	18	2.5%
未回答	11	1.5%
総計	731	100.0%



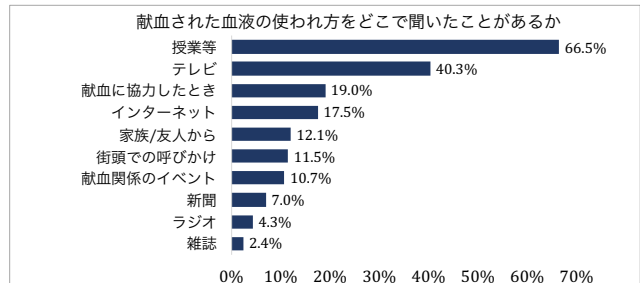
Q2 あなたは献血された血液がどのような使われ方をするのかを聞いたことがありますか

	ある		ない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	531	72.6%	174	23.8%	26	3.6%
1年 N=167	115	68.9%	51	30.5%	1	0.6%
2年 N=101	70	69.3%	28	27.7%	3	3.0%
3年 N=147	105	71.4%	35	23.8%	7	4.8%
4年 N=159	121	76.1%	36	22.6%	2	1.3%
5年 N=60	42	70.0%	11	18.3%	7	11.7%
6年 N=97	78	80.4%	13	13.4%	6	6.2%



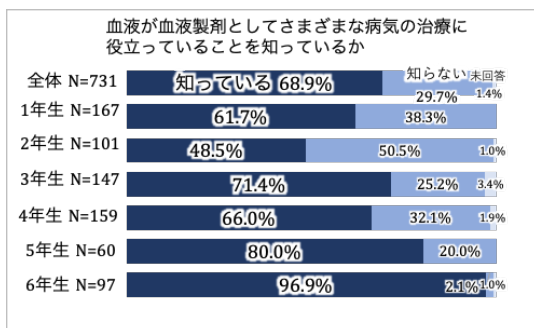
Q2 献血された血液の使い道をどこで聞いたことがありますか（献血された血液の使われ方を聞いたことがあると答えた N=531）（複数回答）

	人数	割合
授業等	353	66.5%
テレビ	214	40.3%
献血に協力したとき	101	19.0%
インターネット	93	17.5%
家族/友人から	64	12.1%
街頭での呼びかけ	61	11.5%
献血関係のイベント	57	10.7%
新聞	37	7.0%
ラジオ	23	4.3%
雑誌	13	2.4%



Q3 献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか

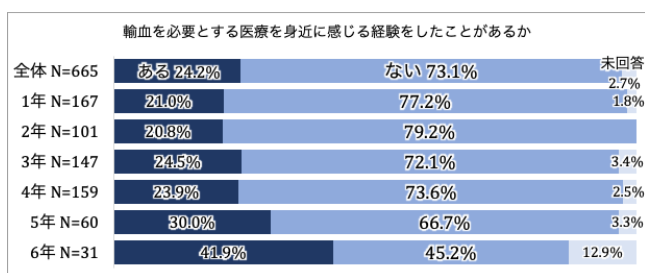
	知っている		知らない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	504	68.9%	217	29.7%	10	1.4%
1年 N=167	103	61.7%	64	38.3%	0	0.0%
2年 N=101	49	48.5%	51	50.5%	1	1.0%
3年 N=147	105	71.4%	37	25.2%	5	3.4%
4年 N=159	105	66.0%	51	32.1%	3	1.9%
5年 N=60	48	80.0%	12	20.0%	0	0.0%
6年 N=97	94	96.9%	2	2.1%	1	1.0%



Q4 あなたは、輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をしたことがありますか

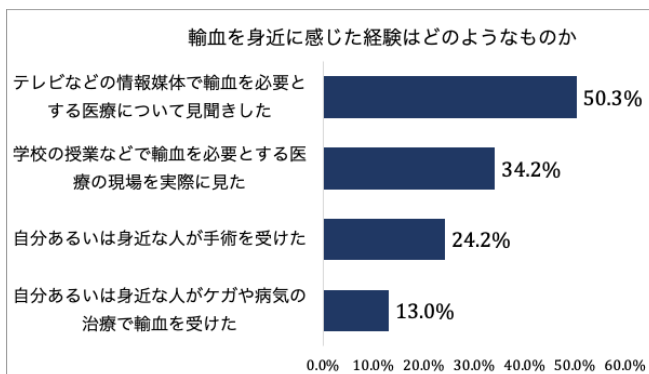
	ある		ない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=665	161	24.0%	486	73.0%	18	2.7%
1年 N=167	35	21.0%	129	77.2%	3	1.8%
2年 N=101	21	20.8%	80	79.2%	0	0.0%
3年 N=147	36	24.5%	106	72.1%	5	3.4%
4年 N=159	38	23.9%	117	73.6%	4	2.5%
5年 N=60	18	30.0%	40	66.7%	2	3.3%
6年 N=31※	13	41.9%	14	45.2%	4	12.9%

※6年生 97人中 66人（医学部）に対しては先行して調査を実施しておりその際に、当該項目が調査項目に含まれていなかったため今回の集計からは除外している



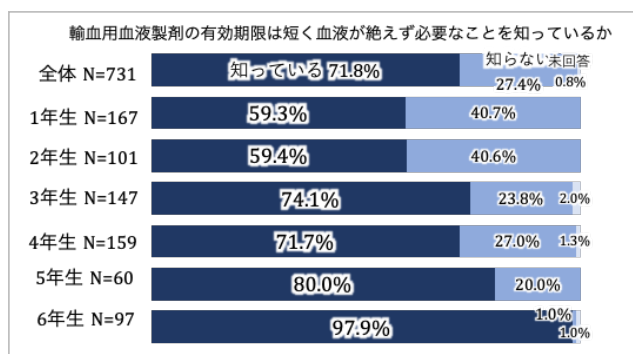
Q4 どのような経験でしょうか（輸血を身近に感じる経験ありと回答した N=161）（複数回答）

	人数	割合
テレビなどの情報媒体で輸血を必要とする医療について見聞きした	81	50.3%
学校の授業などで輸血を必要とする医療の現場を実際に見た	55	34.2%
自分あるいは身近な人が手術を受けた	39	24.2%
自分あるいは身近な人がケガや病気の治療で輸血を受けた	21	13.0%



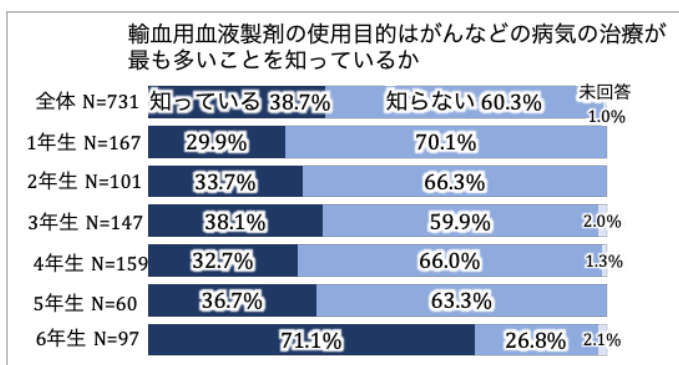
Q5 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なことを知っていますか

	知っている		知らない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	525	71.8%	200	27.4%	6	0.8%
1年 N=167	99	59.3%	68	40.7%	0	0.0%
2年 N=101	60	59.4%	41	40.6%	0	0.0%
3年 N=147	109	74.1%	35	23.8%	3	2.0%
4年 N=159	114	71.7%	43	27.0%	2	1.3%
5年 N=60	48	80.0%	12	20.0%	0	0.0%
6年 N=97	95	97.9%	1	1.0%	1	1.0%



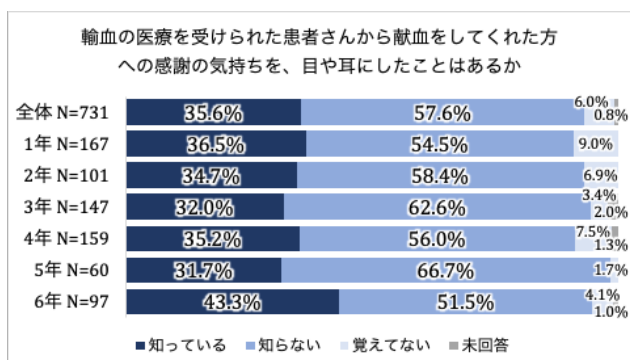
Q6 献血された輸血用血液製剤の使いみちは、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか

	知っている		知らない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	283	38.7%	441	60.3%	7	1.0%
1年 N=167	50	29.9%	117	70.1%	0	0.0%
2年 N=101	34	33.7%	67	66.3%	0	0.0%
3年 N=147	56	38.1%	88	59.9%	3	2.0%
4年 N=159	52	32.7%	105	66.0%	2	1.3%
5年 N=60	22	36.7%	38	63.3%	0	0.0%
6年 N=97	69	71.1%	26	26.8%	2	2.1%



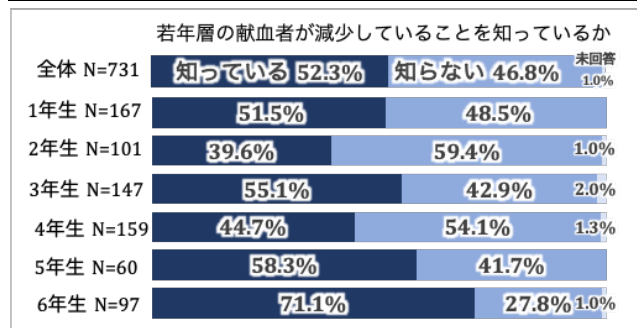
Q7 輸血の医療を受けられた患者さんは、献血してくれた方に感謝の気持を持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか

	知っている		知らない		覚えてない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	260	35.6%	421	57.6%	44	6.0%	6	0.8%
1年 N=167	61	36.5%	91	54.5%	15	9.0%	0	0.0%
2年 N=101	35	34.7%	59	58.4%	7	6.9%	0	0.0%
3年 N=147	47	32.0%	92	62.6%	5	3.4%	3	2.0%
4年 N=159	56	35.2%	89	56.0%	12	7.5%	2	1.3%
5年 N=60	19	31.7%	40	66.7%	1	1.7%	0	0.0%
6年 N=97	42	43.3%	50	51.5%	4	4.1%	1	1.0%



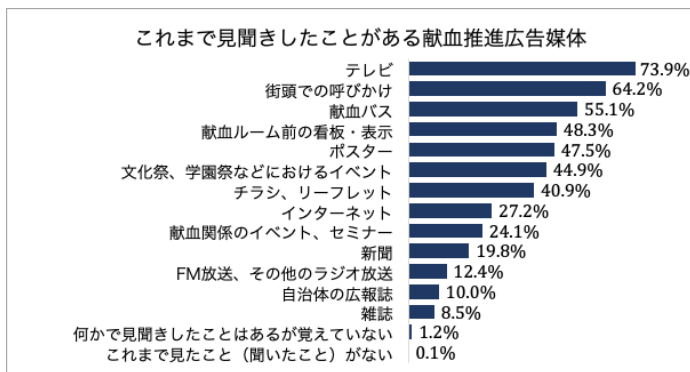
Q8 献血へ協力して下さる若い方の数が、近年大幅に減っていることを知っていましたか

	知っている		知らない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=731	382	52.3%	342	46.8%	7	1.0%
1年 N=167	86	51.5%	81	48.5%	0	0.0%
2年 N=101	40	39.6%	60	59.4%	1	1.0%
3年 N=147	81	55.1%	63	42.9%	3	2.0%
4年 N=159	71	44.7%	86	54.1%	2	1.3%
5年 N=60	35	58.3%	25	41.7%	0	0.0%
6年 N=97	69	71.1%	27	27.8%	1	1.0%



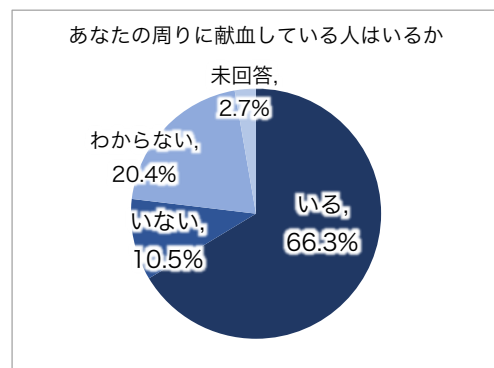
Q9 献血推進に関する広告媒体として、あなたがこれまで見聞きしたことがあるものは何ですか
(複数回答)

	人数	割合
テレビ	540	73.9%
街頭での呼びかけ	469	64.2%
献血バス	403	55.1%
献血ルーム前の看板・表示	353	48.3%
ポスター	347	47.5%
文化祭、学園祭などにおけるイベント	328	44.9%
チラシ、リーフレット	299	40.9%
インターネット	199	27.2%
献血関係のイベント、セミナー	176	24.1%
新聞	145	19.8%
FM放送、その他のラジオ放送	91	12.4%
自治体の広報誌	73	10.0%
雑誌	62	8.5%
何かで見聞きしたことはあるが覚えていない	9	1.2%
これまで見たこと(聞いたこと)がない	1	0.1%



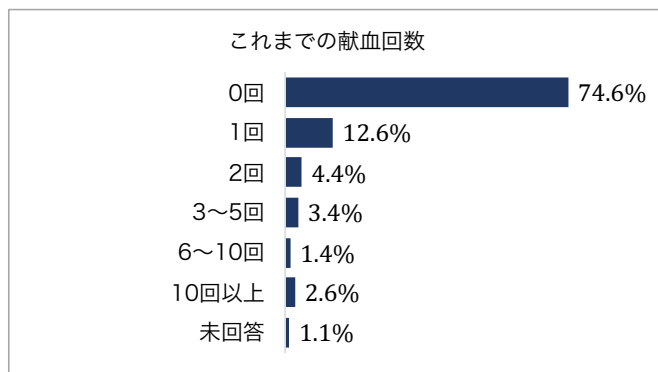
Q10 あなたの周りに献血している人はいますか

	人数	割合
いる	485	66.3%
いない	77	10.5%
わからない	149	20.4%
未回答	20	2.7%
総計	731	100.0%



Q11 あなた自身のこれまでの献血経験回数についてお答えください

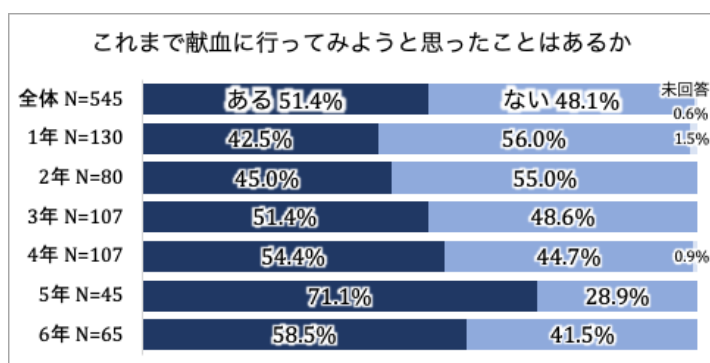
	人数	割合
0回	545	74.6%
1回	92	12.6%
2回	32	4.4%
3～5回	25	3.4%
6～10回	10	1.4%
10回以上	19	2.6%
未回答	8	1.1%
総計	731	100.0%



【Q12-Q14 献血を経験したことがない人 (N=545) のみ回答】

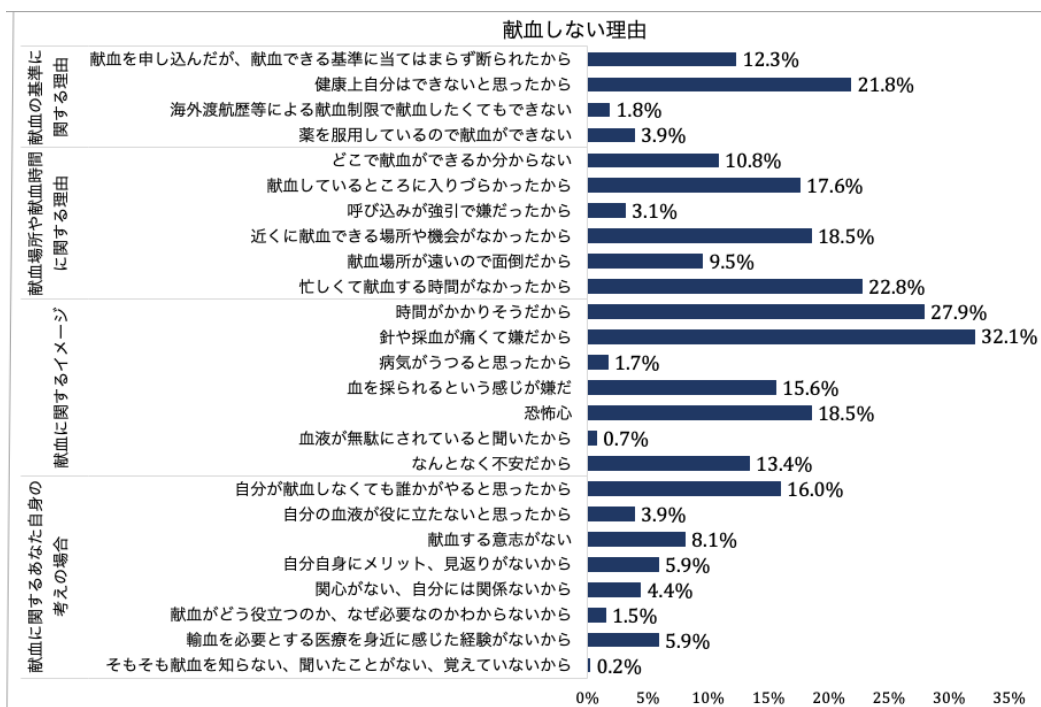
Q12 これまで献血に行ってみようと思ったことはありますか (医療系大学生献血未経験者
N=545)

	ある		ない		未回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
全体 N=545	280	51.4%	262	48.1%	3	0.6%
1年 N=133	57	42.5%	75	56.0%	2	1.5%
2年 N=80	36	45.0%	44	55.0%	0	0.0%
3年 N=107	55	51.4%	52	48.6%	0	0.0%
4年 N=115	62	54.4%	51	44.7%	1	0.9%
5年 N=45	32	71.1%	13	28.9%	0	0.0%
6年 N=65	38	58.5%	27	41.5%	0	0.0%



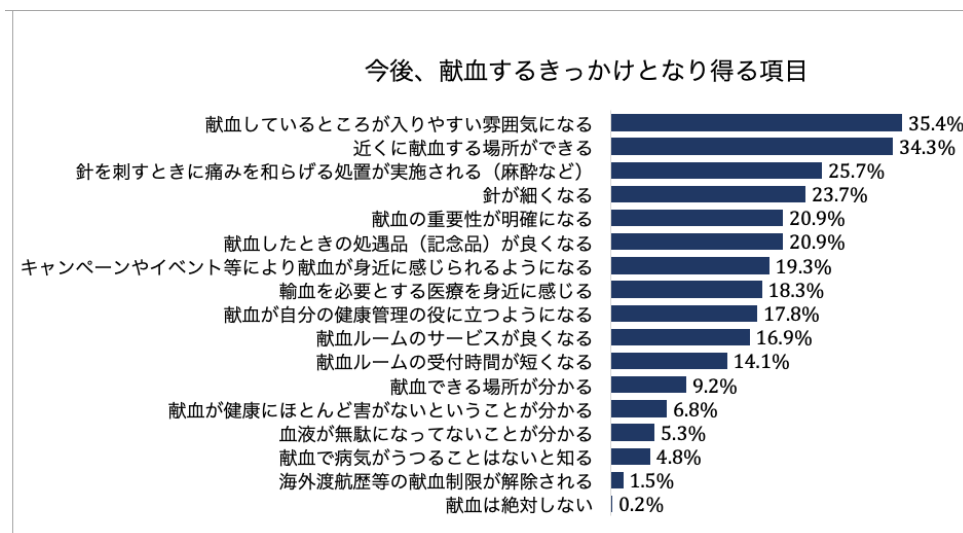
Q13 あなたがこれまで献血を経験したことがない理由は何ですか（複数回答）（医療系大学生献血未経験者 N=545）

項目	人数	割合
献血を申し込んだが、献血できる基準に当てはまらず断られたから	67	12.3%
健康上自分ではできないと思ったから	119	21.8%
海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない	10	1.8%
薬を服用しているので献血ができない	21	3.9%
どこで献血ができるか分からない	59	10.8%
献血しているところに入りづらかったから	96	17.6%
呼び込みが強引で嫌だったから	17	3.1%
近くに献血できる場所や機会がなかったから	101	18.5%
献血場所が遠いので面倒だから	52	9.5%
忙しくて献血する時間がなかったから	124	22.8%
時間がかかりそうだから	152	27.9%
針や採血が痛くて嫌だから	175	32.1%
病気がうつると思ったから	9	1.7%
血を採られるという感じが嫌だ	85	15.6%
恐怖心	101	18.5%
血液が無駄にされていると聞いたから	4	0.7%
なんとなく不安だから	73	13.4%
自分が献血しなくても誰かがやると思ったから	87	16.0%
自分の血液が役に立たないと思ったから	21	3.9%
献血する意志がない	44	8.1%
自分自身にメリット、見返りがないから	32	5.9%
関心がない、自分には関係ないから	24	4.4%
献血がどう役立つのか、なぜ必要なのかわからないから	8	1.5%
輸血を必要とする医療を身近に感じた経験がないから	32	5.9%
そもそも献血を知らない、聞いたことがない、覚えていないから	1	0.2%



Q14 あなたが今後献血するきっかけとなり得る項目は何ですか（複数回答）（医療系大学生献血未経験者 N=545）

	人数	割合
献血しているところが入りやすい雰囲気になる	193	35.4%
近くに献血する場所ができる	187	34.3%
針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施される（麻酔など）	140	25.7%
針が細くなる	129	23.7%
献血の重要性が明確になる	114	20.9%
献血したときの処遇品（記念品）が良くなる	114	20.9%
キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになる	105	19.3%
輸血を必要とする医療を身近に感じる	100	18.3%
献血が自分の健康管理の役に立つようになる	97	17.8%
献血ルームのサービスが良くなる	92	16.9%
献血ルームの受付時間が短くなる	77	14.1%
献血できる場所が分かる	50	9.2%
献血が健康にほとんど害がないということが分かる	37	6.8%
血液が無駄になってないことが分かる	29	5.3%
献血で病気がうつることはないを知る	26	4.8%
海外渡航歴等の献血制限が解除される	8	1.5%
献血は絶対しない	1	0.2%



Q14 あなたが今後献血するきっかけとなり得る項目は何ですか（自由記載）

（自由記載）	人数
一緒に行く人がいる、友達に誘われる	31
時間ができたら	25
基準をみたすようになったら	16
献血による体調不良等がなくなったら、ないと分かったら	15
学校できる（授業の一環等）	14

Q14 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか

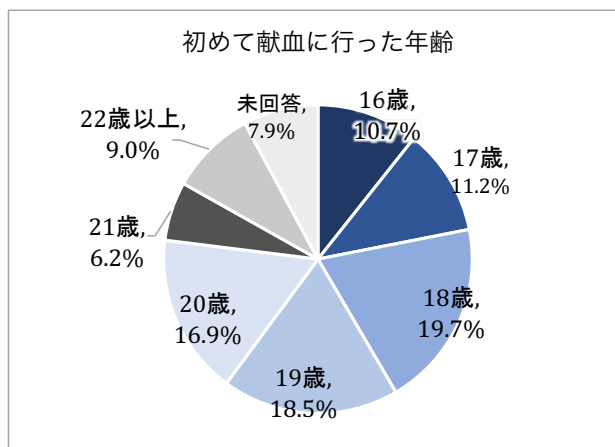
（自由記載）

自由記載	人数
広告を使う（CM、ネット、SNS）	18
学校で行う（献血バス、健康診断に同時になど）	14
献血の必要性をデータ等を用いさらに伝える	10
処遇品を使えるもの、豪華なものにする（現金、Quo カード）	10
有名人を用いた景品や広報	9

【Q15-Q17 献血を経験したことがある人 (N=178) のみ回答】

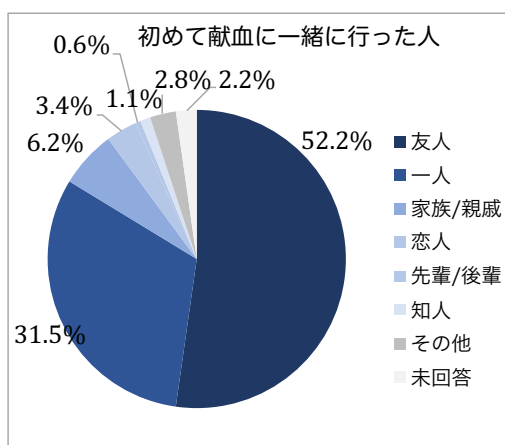
Q15 初めて献血に行ったのは何歳の時ですか (医療系大学生献血経験者 N=178)

	人数	割合
16歳	19	10.7%
17歳	20	11.2%
18歳	35	19.7%
19歳	33	18.5%
20歳	30	16.9%
21歳	11	6.2%
22歳以上	16	9.0%
未回答	14	7.9%



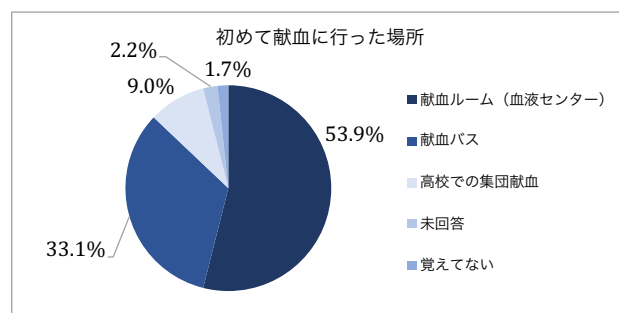
Q15 初めて献血に行った時にだれと一緒にきましたか (医療系大学生献血経験者 N=178)

	人数	割合
友人	93	52.2%
一人	56	31.5%
家族/親戚	11	6.2%
恋人	6	3.4%
先輩/後輩	1	0.6%
知人	2	1.1%
その他	5	2.8%
未回答	4	2.2%
総計	178	100.0%



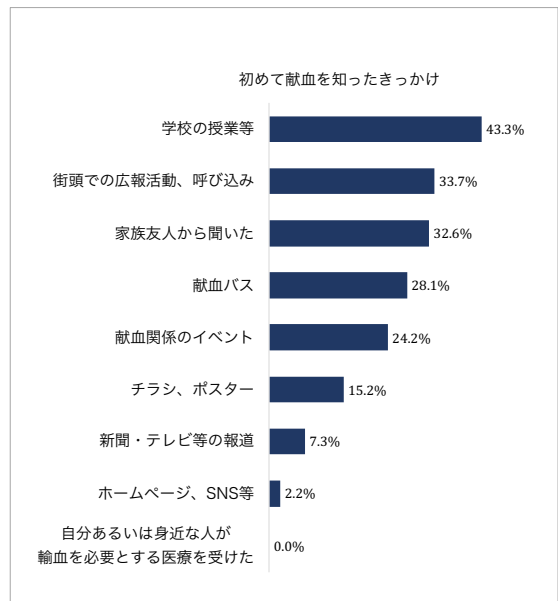
Q15 初めて献血に行った場所はどこですか (医療系大学生献血経験者 N=178)

	人数	割合
献血ルーム(血液センター)	96	53.9%
献血バス	59	33.1%
高校での集団献血	16	9.0%
未回答	4	2.2%
覚えてない	3	1.7%
総計	178	100.0%



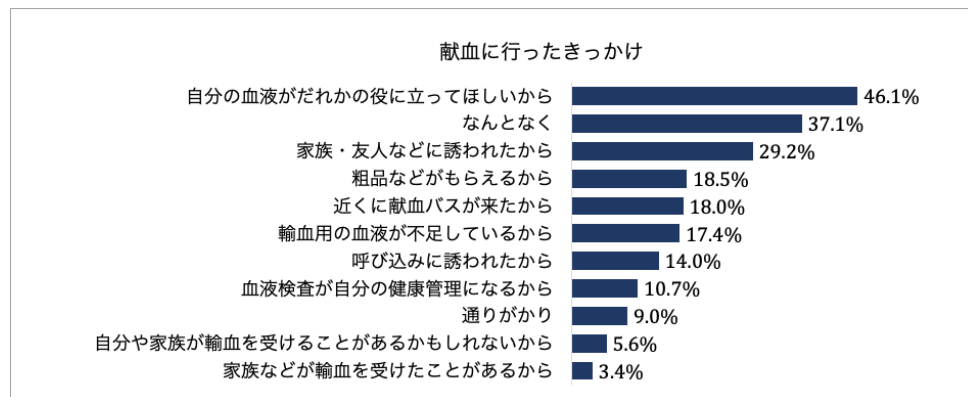
Q15 初めて献血を知ったきっかけは何ですか（複数回答）（医療系大学生献血経験者 N=178）

	人数	割合
学校の授業等	77	43.3%
街頭での広報活動、呼び込み	60	33.7%
家族友人から聞いた	58	32.6%
献血バス	50	28.1%
献血関係のイベント	43	24.2%
チラシ、ポスター	27	15.2%
新聞・テレビ等の報道	13	7.3%
ホームページ、SNS等	4	2.2%
自分あるいは身近な人が輸血を必要とする医療を受けた	0	0.0%



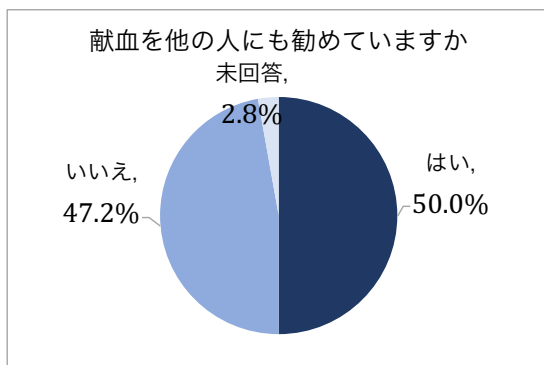
Q15 初めて献血に行ったきっかけは何ですか（複数回答）（医療系大学生献血経験者 N=178）

	人数	割合
自分の血液がだれかの役に立ってほしいから	82	46.1%
なんとなく	66	37.1%
家族・友人などに誘われたから	52	29.2%
粗品などがもらえるから	33	18.5%
近くに献血バスが来たから	32	18.0%
輸血用の血液が不足しているから	31	17.4%
呼び込みに誘われたから	25	14.0%
血液検査が自分の健康管理になるから	19	10.7%
通りがかり	16	9.0%
自分や家族が輸血を受けることがあるかもしれないから	10	5.6%
家族などが輸血を受けたことがあるから	6	3.4%



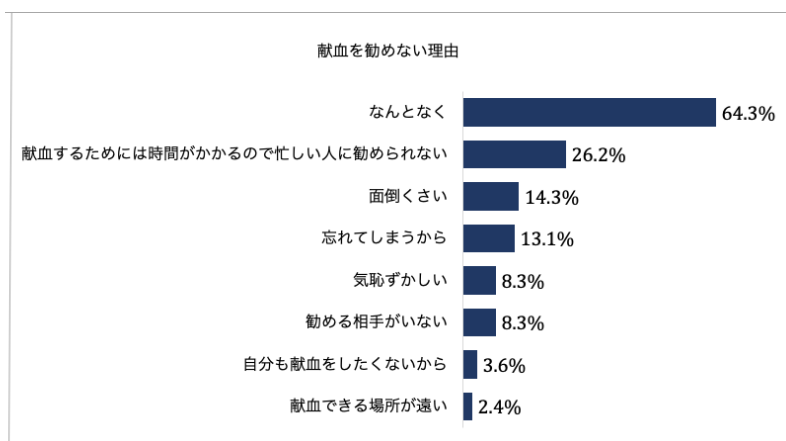
Q16 献血を他の人にも勧めていますか (医療系大学生献血経験者 N=178)

	人数	割合
はい	89	50.0%
いいえ	84	47.2%
未回答	5	2.8%
総計	178	100.0%



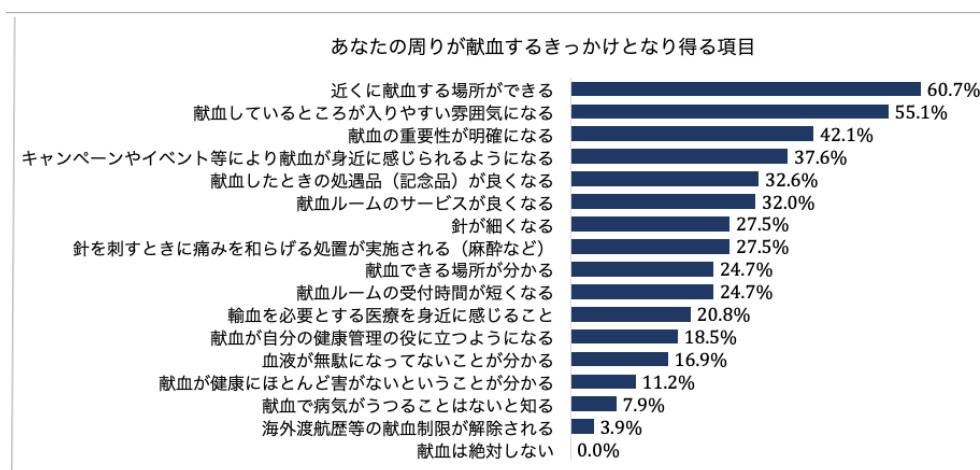
Q16 献血を勧めない理由は何ですか (複数回答) (献血を勧めないと回答した N=84)

	人数	割合
なんとなく	54	64.3%
献血するためには時間がかかるので忙しい人に勧められない	22	26.2%
面倒くさい	12	14.3%
忘れてしまうから	11	13.1%
気恥ずかしい	7	8.3%
勧める相手がいない	7	8.3%
自分も献血をしたくないから	3	3.6%
献血できる場所が遠い	2	2.4%



Q17 あなた周りの方が今後献血するきっかけとなり得るとあなたが思う項目は何ですか（複数回答）（医療系大学生献血経験者 N=178）

	人数	割合
近くに献血する場所ができる	108	60.7%
献血しているところが入りやすい雰囲気になる	98	55.1%
献血の重要性が明確になる	75	42.1%
キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになる	67	37.6%
献血したときの処遇品（記念品）が良くなる	58	32.6%
献血ルームのサービスが良くなる	57	32.0%
針が細くなる	49	27.5%
針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施される（麻酔など）	49	27.5%
献血ルームの受付時間が短くなる	44	24.7%
献血できる場所が分かる	44	24.7%
輸血を必要とする医療を身近に感じる	37	20.8%
献血が自分の健康管理の役に立つようになる	33	18.5%
血液が無駄になってないことが分かる	30	16.9%
献血が健康にほとんど害がないということが分かる	20	11.2%
献血で病気がうつることはないを知る	14	7.9%
海外渡航歴等の献血制限が解除される	7	3.9%
献血は絶対しない	0	0.0%



Q17 あなた周りの方が今後献血するきっかけとなり得るとあなたが思う項目は何ですか（自由記載）

	人数
近くまたは普段行く場所に献血バスが来る	18
人に誘われる	10
献血が不足していることや使われ方をもっと伝える	9
時間が短くなる	6
若者が欲しがる粗品	5

Q17 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか（自由記載）

	人数
有名人、インフルエンサーを起用	7
待ち時間の多い場所で献血できる（駅）	6
学校で献血事業を教える	6
記念品を良くする（電子マネー、アニメグッズ等）	6
献血で体重が減ること（健康管理）をアピール	5

別添資料 3 献血ルームを訪れた献血希望者を対象とした調査結果

【献血ルームにおける調査】

➤ 広島市内献血ルーム 2 か所

調査場所：献血ルームもみじ、ピース

調査期間：2019年7月13-15日

調査対象者：調査対象期間中に訪れた献血ルーム来訪者合計 600 人（300 人×2 か所）

回答数：599 人

➤ 大阪市内献血ルーム 3 か所

調査場所：阪急グランドビル 25 献血ルーム、御堂筋献血ルーム CROSS CAFÉ、

まいどなんば献血ルーム

調査期間：2019年9月

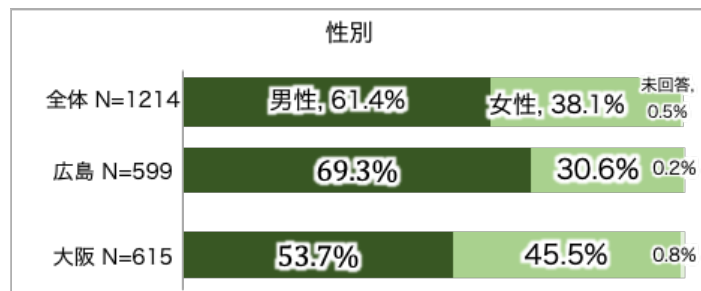
調査対象者：調査対象期間中に訪れた献血ルーム来訪者合計 600 人（200 人×3 か所）

回答数：615 人

【献血ルームにおける調査結果】

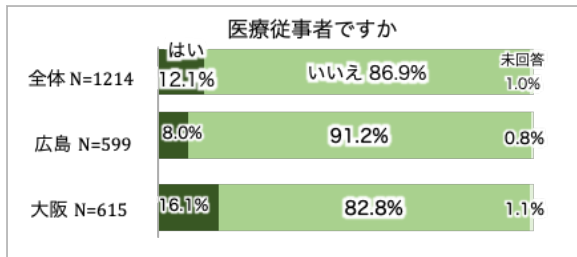
Q1 性別

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男性	745	61.4%	415	69.3%	330	53.7%
女性	463	38.1%	183	30.6%	280	45.5%
未回答	6	0.5%	1	0.2%	5	0.8%
計	1214	100.0%	615	100.0%	599	100.0%



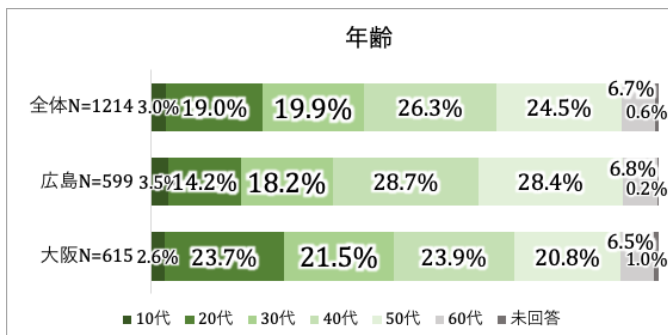
Q1 あなたは医療従事者ですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
はい	147	12.1%	48	8.0%	99	16.1%
いいえ	1055	86.9%	546	91.2%	509	82.8%
未回答	12	1.0%	5	0.8%	7	1.1%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



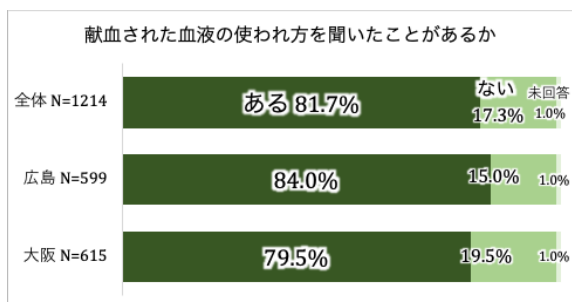
Q1 年齢

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10代	37	3.0%	21	3.5%	16	2.6%
20代	231	19.0%	85	14.2%	146	23.7%
30代	241	19.9%	109	18.2%	132	21.5%
40代	319	26.3%	172	28.7%	147	23.9%
50代	298	24.5%	170	28.4%	128	20.8%
60代	81	6.7%	41	6.8%	40	6.5%
未回答	7	0.6%	1	0.2%	6	1.0%
総計	1214	100%	599	100%	615	100%



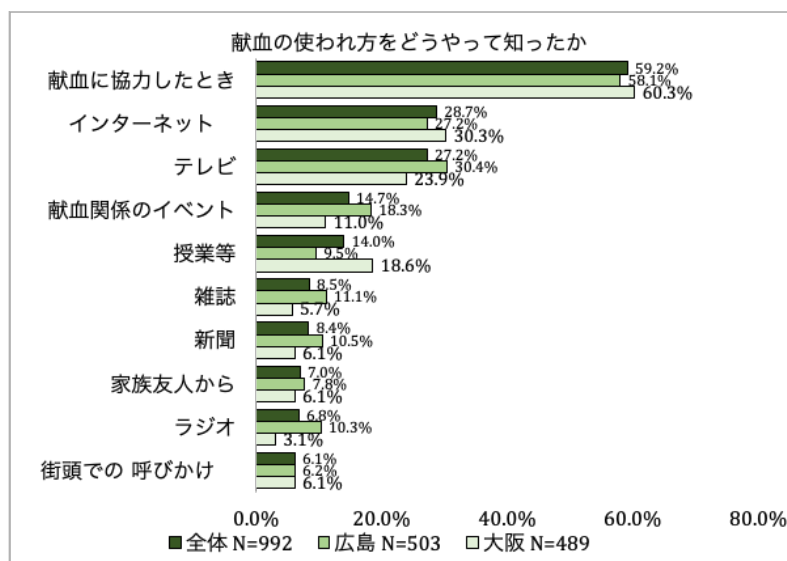
Q2 あなたは献血された血液がどのような使われ方するのかを聞いたことがありますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	992	81.7%	503	84.0%	489	79.5%
ない	210	17.3%	90	15.0%	120	19.5%
未回答	12	1.0%	6	1.0%	6	1.0%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



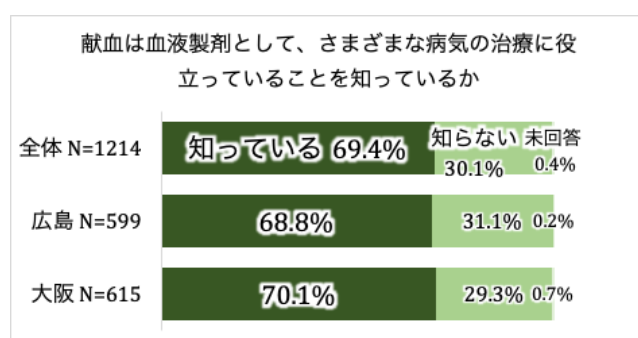
Q2 献血された血液の使われ方をどこで知りましたか（複数回答）（献血の使い方を知っている
と答えた方のみ）

	全体 N=992		広島 N=503		大阪 N=489	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
献血に協力したとき	587	59.2%	292	58.1%	295	60.3%
インターネット	285	28.7%	137	27.2%	148	30.3%
テレビ	270	27.2%	153	30.4%	117	23.9%
献血関係のイベント	146	14.7%	92	18.3%	54	11.0%
授業等	139	14.0%	48	9.5%	91	18.6%
雑誌	84	8.5%	56	11.1%	28	5.7%
新聞	83	8.4%	53	10.5%	30	6.1%
家族友人から	69	7.0%	39	7.8%	30	6.1%
ラジオ	67	6.8%	52	10.3%	15	3.1%
街頭での呼びかけ	61	6.1%	31	6.2%	30	6.1%



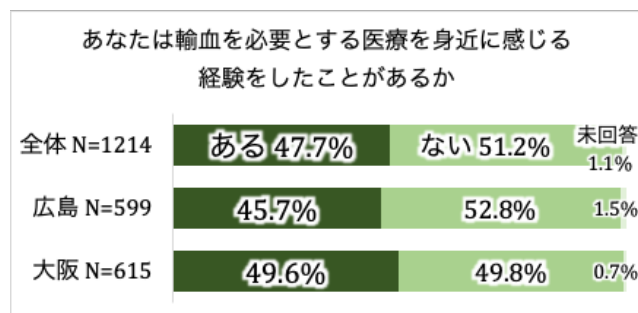
Q3 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることをご存知ですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	843	69.4%	412	68.8%	431	70.1%
知らない	366	30.1%	186	31.1%	180	29.3%
未回答	5	0.4%	1	0.2%	4	0.7%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



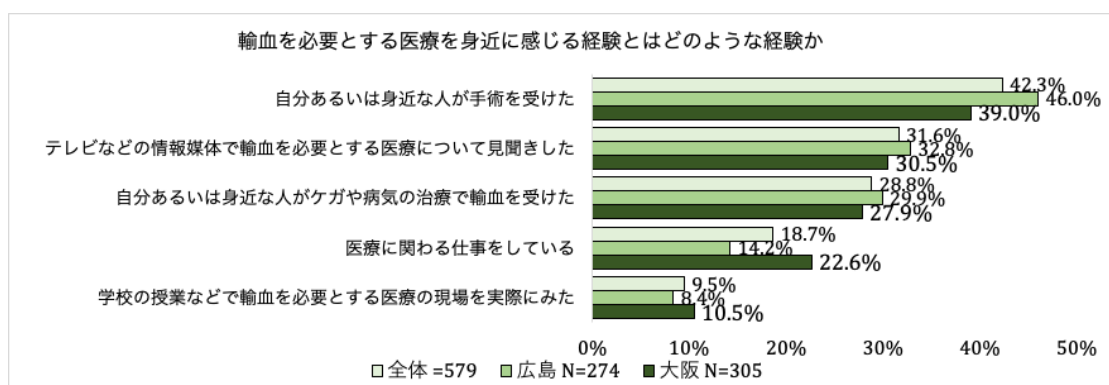
Q4 あなたは輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をしたことがありますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	579	47.7%	274	45.7%	305	49.6%
ない	622	51.2%	316	52.8%	306	49.8%
未回答	13	1.1%	9	1.5%	4	0.7%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



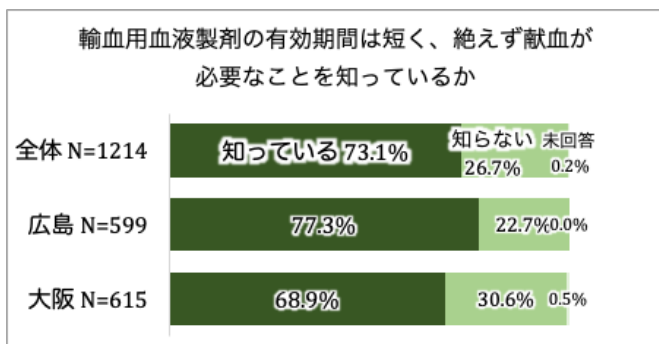
Q4 輸血を必要とする医療を身近に感じる経験とはどのような経験ですか（複数回答）（経験ありと回答した方のみ）

	全体 N=579		広島 N=274		大阪 N=305	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自分あるいは身近な人が手術を受けた	245	42.3%	126	46.0%	119	39.0%
テレビなどの情報媒体で輸血を必要とする医療について見聞きした	183	31.6%	90	32.8%	93	30.5%
自分あるいは身近な人がケガや病気の治療で輸血を受けた	167	28.8%	82	29.9%	85	27.9%
医療に関わる仕事をしている	108	18.7%	39	14.2%	69	22.6%
学校の授業などで輸血を必要とする医療の現場を実際にみた	55	9.5%	23	8.4%	32	10.5%



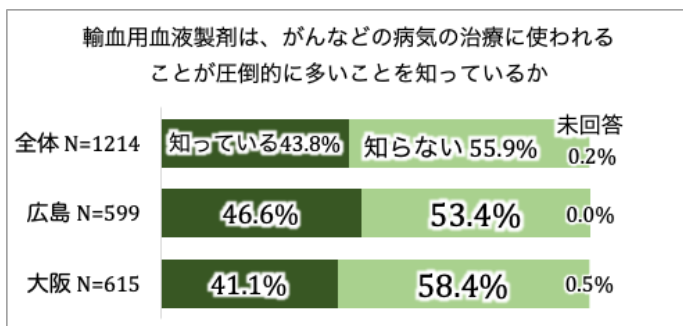
Q5 献血された血液によって作られる輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なことを知っていますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	887	73.1%	463	77.3%	424	68.9%
知らない	324	26.7%	136	22.7%	188	30.6%
未回答	3	0.2%	0	0.0%	3	0.5%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



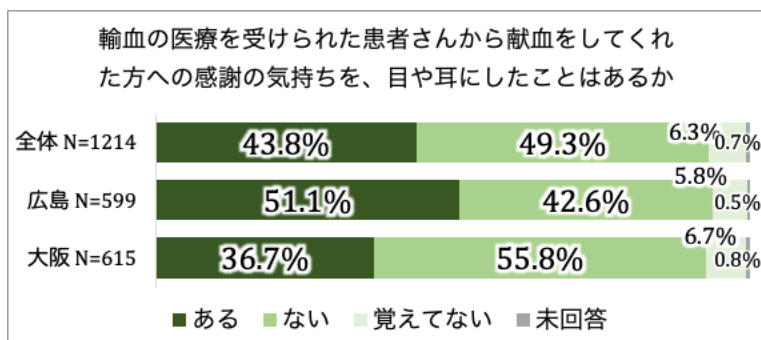
Q6 献血された血液によって作られる輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	532	43.8%	279	46.6%	253	41.1%
知らない	679	55.9%	320	53.4%	359	58.4%
未回答	3	0.2%	0	0.0%	3	0.5%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



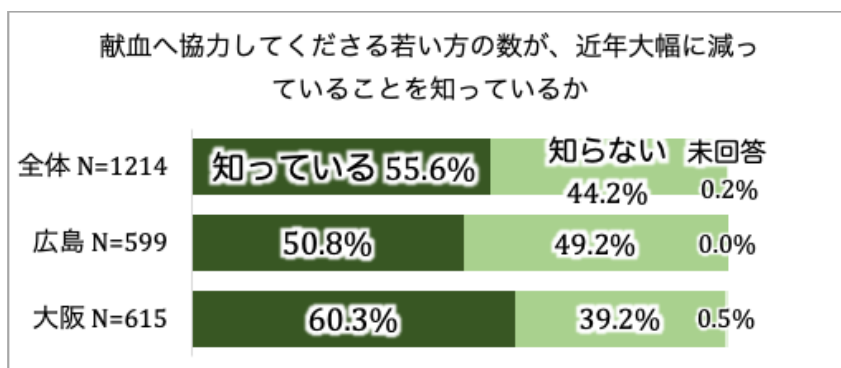
Q7 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝（献血してくれてありがとう）の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	532	43.8%	306	51.1%	226	36.7%
ない	598	49.3%	255	42.6%	343	55.8%
覚えてない	76	6.3%	35	5.8%	41	6.7%
未回答	8	0.7%	3	0.5%	5	0.8%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



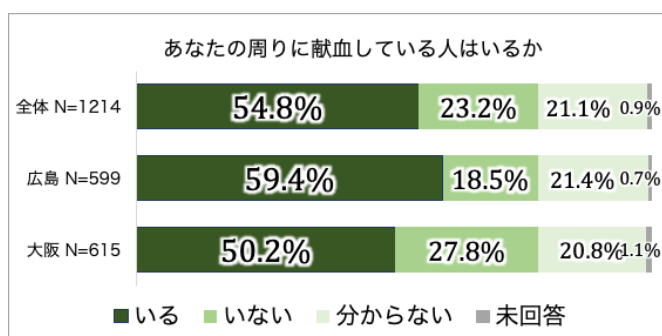
Q8 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っていることを知っていましたか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	675	55.6%	304	50.8%	371	60.3%
知らない	536	44.2%	295	49.2%	241	39.2%
未回答	3	0.2%	0	0.0%	3	0.5%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



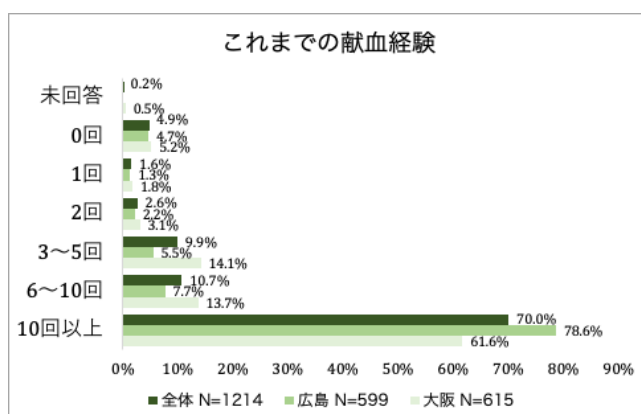
Q9 あなたの周りに献血している人はいますか。

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いる	665	54.8%	356	59.4%	309	50.2%
いない	282	23.2%	111	18.5%	171	27.8%
分からない	256	21.1%	128	21.4%	128	20.8%
未回答	11	0.9%	4	0.7%	7	1.1%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



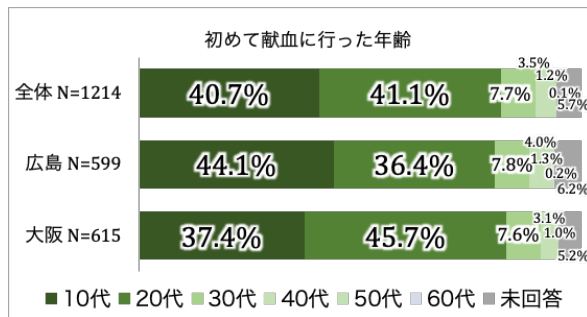
Q10 あなた自身のこれまでの献血経験回数は何回ですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
未回答	3	0.2%	0	0.0%	3	0.5%
0回	60	4.9%	28	4.7%	32	5.2%
1回	19	1.6%	8	1.3%	11	1.8%
2回	32	2.6%	13	2.2%	19	3.1%
3～5回	120	9.9%	33	5.5%	87	14.1%
6～10回	130	10.7%	46	7.7%	84	13.7%
10回以上	850	70.0%	471	78.6%	379	61.6%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



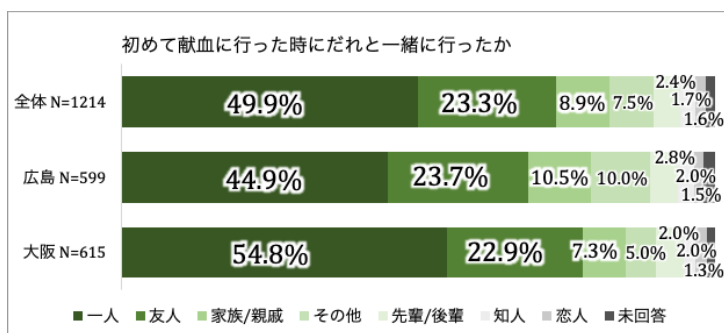
Q11 初めて献血に行ったのはあなたが何歳のときですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10代	494	40.7%	264	44.1%	230	37.4%
20代	499	41.1%	218	36.4%	281	45.7%
30代	94	7.7%	47	7.8%	47	7.6%
40代	43	3.5%	24	4.0%	19	3.1%
50代	14	1.2%	8	1.3%	6	1.0%
60代	1	0.1%	1	0.2%	0	0.0%
未回答	69	5.7%	37	6.2%	32	5.2%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



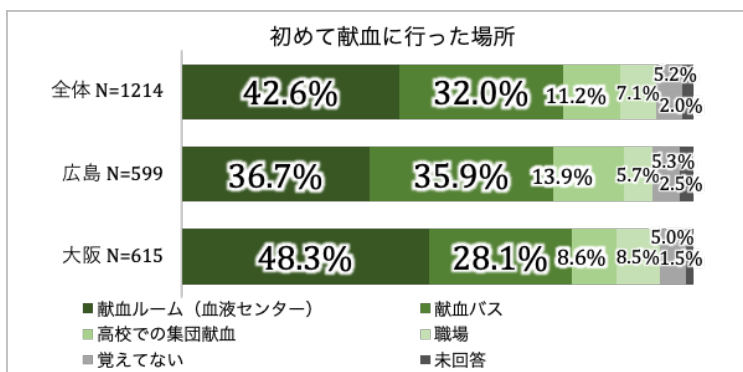
Q11 初めて献血に行ったとき誰と一緒にきましたか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
一人	606	49.9%	269	44.9%	337	54.8%
友人	283	23.3%	142	23.7%	141	22.9%
家族/親戚	108	8.9%	63	10.5%	45	7.3%
その他	91	7.5%	60	10.0%	31	5.0%
先輩/後輩	56	4.6%	27	4.5%	29	4.7%
知人	29	2.4%	17	2.8%	12	2.0%
恋人	21	1.7%	9	1.5%	12	2.0%
未回答	20	1.6%	12	2.0%	8	1.3%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



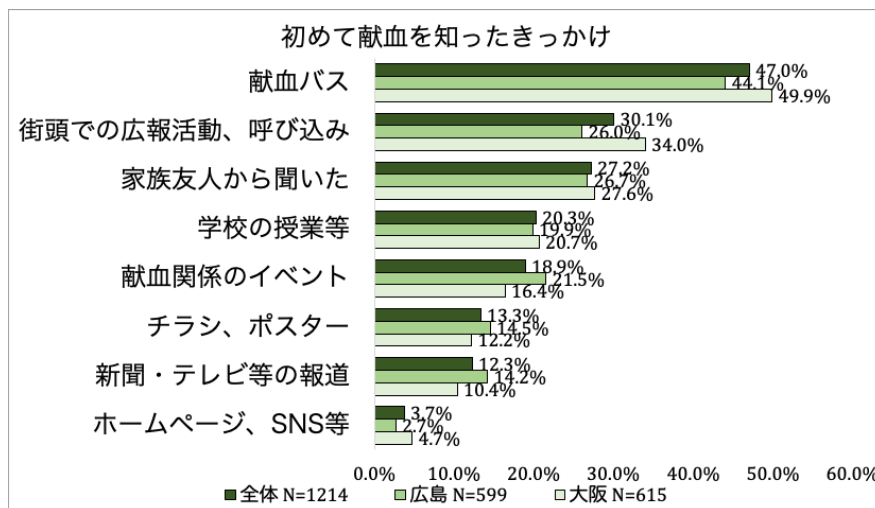
Q11 あなたが初めて献血に行った場所はどこですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
献血ルーム（血液センター）	517	42.6%	220	36.7%	297	48.3%
献血バス	388	32.0%	215	35.9%	173	28.1%
高校での集団献血	136	11.2%	83	13.9%	53	8.6%
職場	86	7.1%	34	5.7%	52	8.5%
覚えてない	63	5.2%	32	5.3%	31	5.0%
未回答	24	2.0%	15	2.5%	9	1.5%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



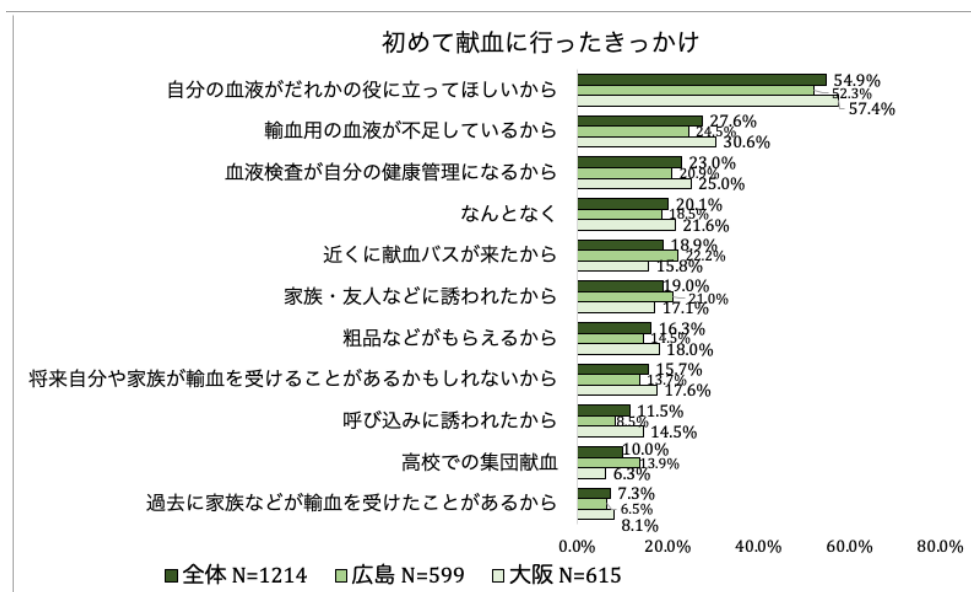
Q11 あなたが初めて献血を知ったきっかけは何ですか（複数回答可）

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
献血バス	571	47.0%	264	44.1%	307	49.9%
街頭での広報活動、呼び込み	365	30.1%	156	26.0%	209	34.0%
家族友人から聞いた	330	27.2%	160	26.7%	170	27.6%
学校の授業等	246	20.3%	119	19.9%	127	20.7%
献血関係のイベント	230	18.9%	129	21.5%	101	16.4%
チラシ、ポスター	162	13.3%	87	14.5%	75	12.2%
新聞・テレビ等の報道	149	12.3%	85	14.2%	64	10.4%
ホームページ、SNS等	45	3.7%	16	2.7%	29	4.7%



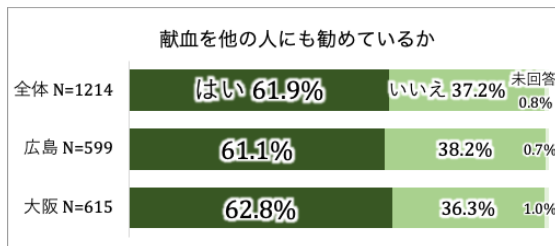
Q11 初めて献血に行ったきっかけは何ですか（複数回答可）

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自分の血液がだれかの役に立ってほしいから	666	54.9%	313	52.3%	353	57.4%
輸血用の血液が不足しているから	335	27.6%	147	24.5%	188	30.6%
血液検査が自分の健康管理になるから	279	23.0%	125	20.9%	154	25.0%
なんとなく	244	20.1%	111	18.5%	133	21.6%
家族・友人などに誘われたから	231	18.9%	126	22.2%	105	15.8%
近くに献血バスが来たから	230	19.0%	133	21.0%	97	17.1%
粗品などがもらえるから	198	16.3%	87	14.5%	111	18.0%
将来自分や家族が輸血を受けることがあるかもしれないから	190	15.7%	82	13.7%	108	17.6%
呼び込みに誘われたから	140	11.5%	51	8.5%	89	14.5%
高校での集団献血	122	10.0%	83	13.9%	39	6.3%
過去に家族などが輸血を受けたことがあるから	89	7.3%	39	6.5%	50	8.1%



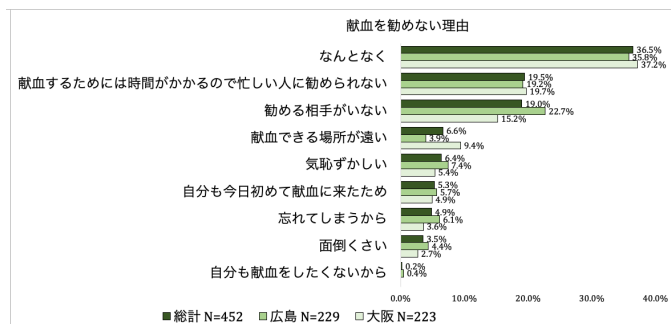
Q12 献血を他の人にも勧めていますか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
はい	752	61.9%	366	61.1%	386	62.8%
いいえ	452	37.2%	229	38.2%	223	36.3%
未回答	10	0.8%	4	0.7%	6	1.0%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



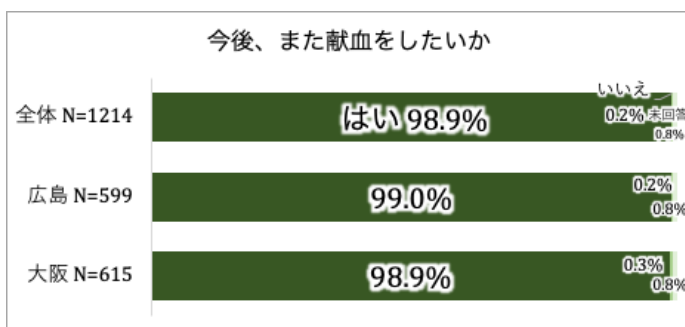
Q12 献血を勧めない理由は何ですか（複数回答可）（献血を勧めないと回答した方のみ）

	全体 N=452		広島 N=229		大阪 N=223	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
なんとなく	165	36.5%	82	35.8%	83	37.2%
献血するためには時間がかかるので忙しい人に勧められない	88	19.5%	44	19.2%	44	19.7%
勧める相手がいない	86	19.0%	52	22.7%	34	15.2%
献血できる場所が遠い	30	6.6%	9	3.9%	21	9.4%
気恥ずかしい	29	6.4%	17	7.4%	12	5.4%
自分も今日初めて献血に来たため	24	5.3%	13	5.7%	11	4.9%
忘れてしまうから	22	4.9%	14	6.1%	8	3.6%
面倒くさい	16	3.5%	10	4.4%	6	2.7%
自分も献血をしたくないから	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%



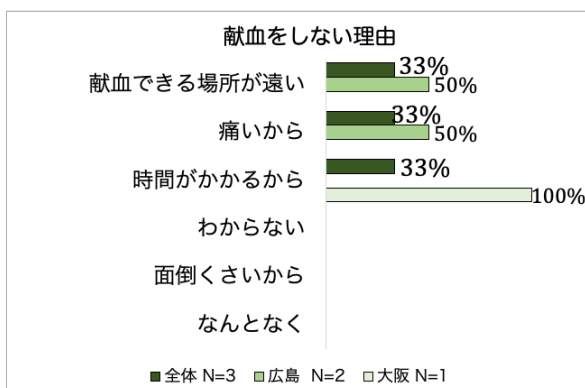
Q13 あなたは今後また献血をしたいですか

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
はい	1201	98.9%	593	99.0%	608	98.9%
いいえ	3	0.2%	1	0.2%	2	0.3%
未回答	10	0.8%	5	0.8%	5	0.8%
総計	1214	100.0%	599	100.0%	615	100.0%



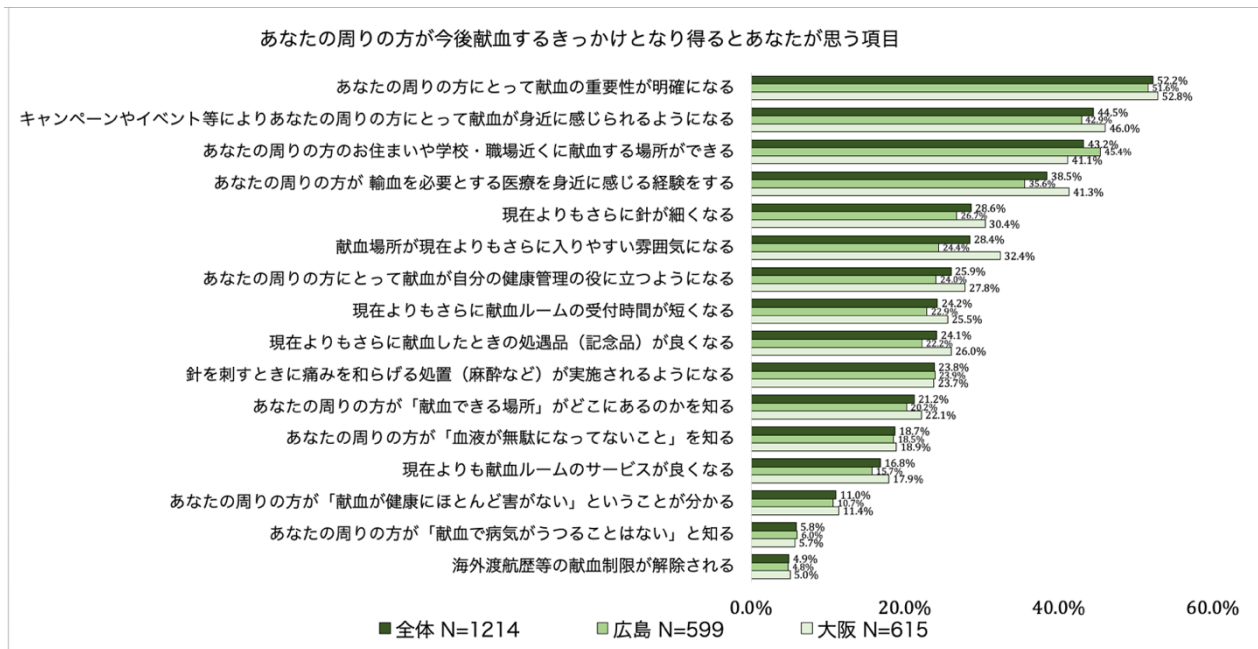
Q13 今後献血をしない理由は何ですか（複数回答可）（今後、献血をしないと回答した方のみ）

	全体 N=3		広島 N=2		大阪 N=1	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
献血できる場所が遠い	1	33%	1	50%	0	0%
痛いから	1	33%	1	50%	0	0%
時間がかかるから	1	33%	0	0%	1	100%
なんとなく	0	0%	0	0%	0	0%
面倒くさいから	0	0%	0	0%	0	0%
わからない	0	0%	0	0%	0	0%



Q14 あなたの周りが今後、献血をするきっかけとなり得る項目は何ですか。(複数回答可)

	全体 N=1214		広島 N=599		大阪 N=615	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
あなたの周りの方にとって献血の重要性が明確になる	634	52.2%	309	51.6%	325	52.8%
キャンペーンやイベント等によりあなたの周りの方にとって献血が身近に感じられるようになる	540	44.5%	257	42.9%	283	46.0%
あなたの周りの方のお住まいや学校・職場近くに献血する場所ができる	525	43.2%	272	45.4%	253	41.1%
あなたの周りの方が輸血を必要とする医療を身近に感じる経験をする	467	38.5%	213	35.6%	254	41.3%
現在よりもさらに針が細くなる	347	28.6%	160	26.7%	187	30.4%
献血場所が現在よりもさらに入りやすい雰囲気になる	345	28.4%	146	24.4%	199	32.4%
あなたの周りの方にとって献血が自分の健康管理の役に立つようになる	315	25.9%	144	24.0%	171	27.8%
現在よりもさらに献血ルームの受付時間が短くなる	294	24.2%	137	22.9%	157	25.5%
現在よりもさらに献血したときの処遇品(記念品)が良くなる	293	24.1%	133	22.2%	160	26.0%
針を刺すときに痛みを和らげる処置(麻酔など)が実施されるようになる	289	23.8%	143	23.9%	146	23.7%
あなたの周りの方が「献血できる場所」がどこにあるのかを知る	257	21.2%	121	20.2%	136	22.1%
あなたの周りの方が「血液が無駄になってないこと」を知る	227	18.7%	111	18.5%	116	18.9%
現在よりも献血ルームのサービスが良くなる	204	16.8%	94	15.7%	110	17.9%
あなたの周りの方が「献血が健康にほとんど害がない」ということが分かる	134	11.0%	64	10.7%	70	11.4%
あなたの周りの方が「献血で病気がうつることはない」と知る	71	5.8%	36	6.0%	35	5.7%
海外渡航歴等の献血制限が解除される	60	4.9%	29	4.8%	31	5.0%



Q14 あなたの周りの方が今後献血をするきっかけとなりうると思うこととすればどんなことでしょうか（自由記載）

	人数
TV、Net、SNS を用いた PR（献血の必要性、使われ方を含めた）	43
家族、同僚または友人のすすめ	31
著名人やアニメキャラクターによる PR	20
社会貢献ができる	19
職場や学校で献血について教える	14
イベント会場での PR	14
周りが輸血を必要となる状況	7

Q14 若い方の献血に協力する気持ちをも高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。（自由記載）

	人数
有名人、インフルエンサーによる PR やイベント活動（実際に献血をしてもらう等）	49
学校（学祭時など）・職場に献血バスが出向く	38
メディア・インターネット・SNS 等での周知	32
学校・職場で献血について教える	28
若い人向けの献血特典をつける(化粧品やアイドルのコンサート・スポーツ観戦が当たるなど)	24
街中やイベント会場での若年層向けの広報（特に初心者）	21